千葉市

高台向遺跡・猪鼻城跡

２００７

千 葉 市 教 育 委 員 会
財団法人 千葉市教育振興財団

千葉市

高台向遺跡・猪鼻城跡

２００７

千 葉 市 教 育 委 員 会
財団法人 千葉市教育振興財団

例　　言

１．本書は千葉市花見川区横戸町1486－２に所在する高台向遺跡および千葉市中央区亥鼻１－６－１に所在する猪鼻城跡の発掘調査報告書である。

２．発掘調査および整理・報告書作成に至る業務は、千葉市の委託を受け、千葉市教育委員会の指導のもとに、（財）千葉市教育振興財団埋蔵文化財調査センターが実施した。

３．発掘調査の期間・面積・担当者は下記の通りである。

高台向遺跡

確認・本調査　平成16年３月１日～平成16年３月30日　調査面積：1,322㎡　担当：長原亘

整　　理　平成18年５月１日～平成18年５月31日　担当：田中英世

猪鼻城跡

確認調査　平成14年２月15日～平成14年３月15日　調査面積：260／10,293㎡　担当：簗瀬裕一

本 調 査　平成15年５月26日～平成16年１月30日　調査面積：1,320㎡　担当：長原亘

本 調 査　平成16年10月14日～平成16年11月12日　調査面積：50㎡　担当：中山貴正

整　　理　平成18年９月１日～平成19年２月28日（断続的）担当：田中英世

４．本書の編集および執筆は田中が行った。

５．遺構の写真撮影は発掘調査担当者が行い、遺物の写真撮影は青柳すみ江が行った。

６．出土資料及び調査記録等は千葉市埋蔵文化財調査センターで保管・管理している。

７．発掘調査から報告書刊行まで、下記の諸機関・諸氏の御指導・御協力を賜った。感謝申しあげる。

千葉県教育庁文化財課　千葉市教育委員会文化課　千葉市立郷土博物館　千葉市立加曽利貝塚博物館

千葉市公園建設課　千葉市中央・稲毛公園緑地事務所　簗瀬裕一

凡　　例

１．本書の遺構番号は原則調査時の番号を踏襲している。

２．本書で掲載した遺構図等の方位は座標北である。公共座標の基準は、日本測地系に基づいている。標高については、海抜高で表示した。

３．遺構・遺物実測図の縮尺は基本的に下記の通りとし、図中にスケールで表示した。

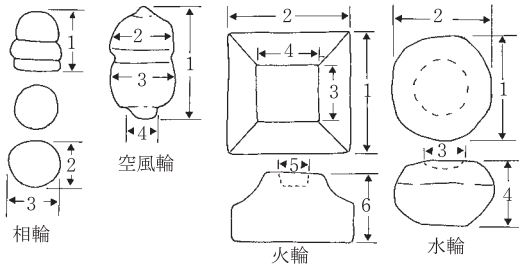
竪穴住居跡1/60　土壙1/60　竈1/30　堀1/100　復元土器・羽口1/4　土器片1/3　五輪塔・礎石1/5

４．遺物観察表の色調は『新版標準土色帖』を用いて表記した。

５．遺物観察表の数値で、口径・底径の（ ）は復元推定値を、器高の（ ）は残存高を表示している。

６．写真図版の遺物スケールは縮尺不同である。

７．遺構・遺物実測図におけるスクリントーンの表示内容は次の通りである。　焼土　内面処理



石塔類計測部位

目　　次

例言
凡例

〈高台向遺跡〉 …… 1
Ⅰ．調査に至る経緯 …… 1
Ⅱ．遺跡の環境と立地 …… 1
　１．遺跡の位置と立地 …… 1
　２．過去の調査 …… 1
　３．調査の方法 …… 4
Ⅲ．検出された遺構と遺物 …… 4
　１．竪穴住居跡 …… 4
　２．調査区出土遺物 …… 6
Ⅳ．まとめ …… 7

〈猪鼻城跡〉 …… 13
Ⅰ．調査に至る経緯 …… 13
Ⅱ．遺跡の環境と立地 …… 13
　１．遺跡の位置と立地 …… 13
　２．過去の調査 …… 13
Ⅲ．検出された遺構と遺物 …… 15
　１．平成14年度 …… 15
　２．平成15年度 …… 16
　３．平成16年度 …… 19
Ⅳ．まとめ …… 28

挿　図　目　次

〈高台向遺跡〉
第１図　周辺の遺跡分布図 …… 2
第２図　高台向遺跡調査地点図 …… 3
第３図　調査区設定図 …… 3
第４図　第１・２号竪穴住居跡実測図 …… 4
第５図　第１号竪穴住居跡遺物実測図 …… 5
第６図　第２号竪穴住居跡遺物実測図 …… 5
第７図　調査区出土遺物実測図 …… 7
第８図　千葉市北部地域の遺跡分布図 …… 8
第９図　千葉市北部地域の分布調査資料（１） …… 10
第10図　千葉市北部地域の分布調査資料（２） …… 11
〈亥鼻城跡〉
第11図　周辺の遺跡分布図 …… 14
第12図　猪鼻城跡地形図 …… 16
第13図　猪鼻城跡全体図 …… 17
第14図　平成14年～16年調査区設定図 …… 18
第15図　主郭地点出土遺物実測図 …… 19
第16図　主郭地点遺構配置図 …… 20
第17図　堀実測図 …… 21
第18図　１号堀出土遺物実測図（１） …… 22
第19図　１号堀出土遺物実測図（２） …… 23
第20図　２号堀出土遺物実測図 …… 23
第21図　３号堀出土遺物実測図 …… 24
第22図　第１号土壙実測図 …… 24
第23図　第１号土壙出土遺物実測図（１） …… 25
第24図　第１号土壙出土遺物実測図（２） …… 26
第25図　女坂・お茶ノ水公園出土遺物実測図 …… 26

表　　目　　次

〈高台向遺跡〉
第１表　第１号竪穴住居跡遺物観察表 …… 5
第２表　第２号竪穴住居跡遺物観察表 …… 6
第３表　千葉市北部地域の遺跡地名表 …… 9
〈猪鼻城跡〉
第４表　周辺遺跡調査一覧表 …… 14
第５表　猪鼻城跡調査一覧表 …… 15
第６表　石塔観察表 …… 27
第７表　遺物観察表 …… 27

写　　真　　目　　次

PL１　〈高台向遺跡〉調査地点近景・第１号竪穴住居跡全景・第２号竪穴住居跡全景・第２号竪穴住居跡遺物出土状況・第２号竪穴住居跡出土遺物
PL２　〈猪鼻城跡１〉主郭調査地点近景・昭和57年度堀検出状況・平成14年度調査状況・平成15年度調査地点・１号堀断面・３号堀断面・第１号土壙全景・第１号土壙遺物出土状況
PL３　〈猪鼻城跡２〉１号堀・３号堀出土遺物
PL４　〈猪鼻城跡３〉第１号土壙出土遺物

高台向遺跡

Ⅰ．調査に至る経緯

本遺跡の調査は、千葉市都市局公園緑地部公園建設課による横戸第六天公園（仮称）建設整備に伴い実施された。平成13年９月14日付けで公園建設課より千葉市花見川区横戸町1486-２他の公園建設整備予定地内における「埋蔵文化財の所在の有無及びその取扱いについて」の照会が、千葉市教育委員会教育長宛に提出された。市教育委員会文化課が現地踏査を行った結果、当該地が周知の遺跡である高台向遺跡の範囲内であることを確認し、『遺跡が所在する』旨、平成14年３月29日付け13千教文第（埋）128号で回答した。これを受けて、市公園建設課と市教育委員会文化課が協議を行い、確認・本調査を行うことで合意し、平成16年３月１日～平成16年３月30日から、対象地1,322㎡の確認調査を行い、引き続いて遺構が検出された調査区の拡張・精査を行う本調査を、千葉市から委託を受けた（財）千葉市教育振興財団埋蔵文化財調査センターが実施した。

Ⅱ．遺跡の環境と立地

１．遺跡の位置と立地（第１・２図）

高台向遺跡は京成線大和田駅の南側に位置する。東の習志野市側から流れる高津川と、西の四街道市側から流れる勝田川が、千葉市横戸町付近で合流して新川となり、北上して印旛沼に注ぐ。高台向遺跡はこの合流点の南側、標高12ｍ～13ｍの台地上に立地する。

周辺は新川と花見川の分水嶺をなし、多くの遺跡が存在する。しかし、縄文時代では、勝田川流域に縄文時代後期から晩期の環状集落である内野第１遺跡（10）があるのみで、遺構が検出されている遺跡は極めて少ない。弥生時代から古墳時代にかけては、新川流域に弥生時代後期～古墳時代前期の川崎山遺跡（２）、弥生時代後期の上ノ山遺跡（３）、勝田川流域に弥生時代後期～古墳時代後期の勝田大作遺跡（９）、弥生時代後期～古墳時代中期の内野第１遺跡（10）があり、高津川流域には古墳時代中・後期の小板橋遺跡（４）、古墳時代前期～平安時代の高津新山遺跡（６）、古墳時代中期～平安時代の内込遺跡（７）がある。この他、箱式石棺が検出された堰場台古墳（５）や前方後円墳の高台向南遺跡（12）、直径22.5ｍ～24ｍの円墳である双子塚遺跡（13）がある。花見川流域には、縄文時代中・後期の馬場塚遺跡（21）・米之内遺跡（23）・一枚田遺跡（24）・井戸遺跡（25）等が存在する。

２．過去の調査（第３図）

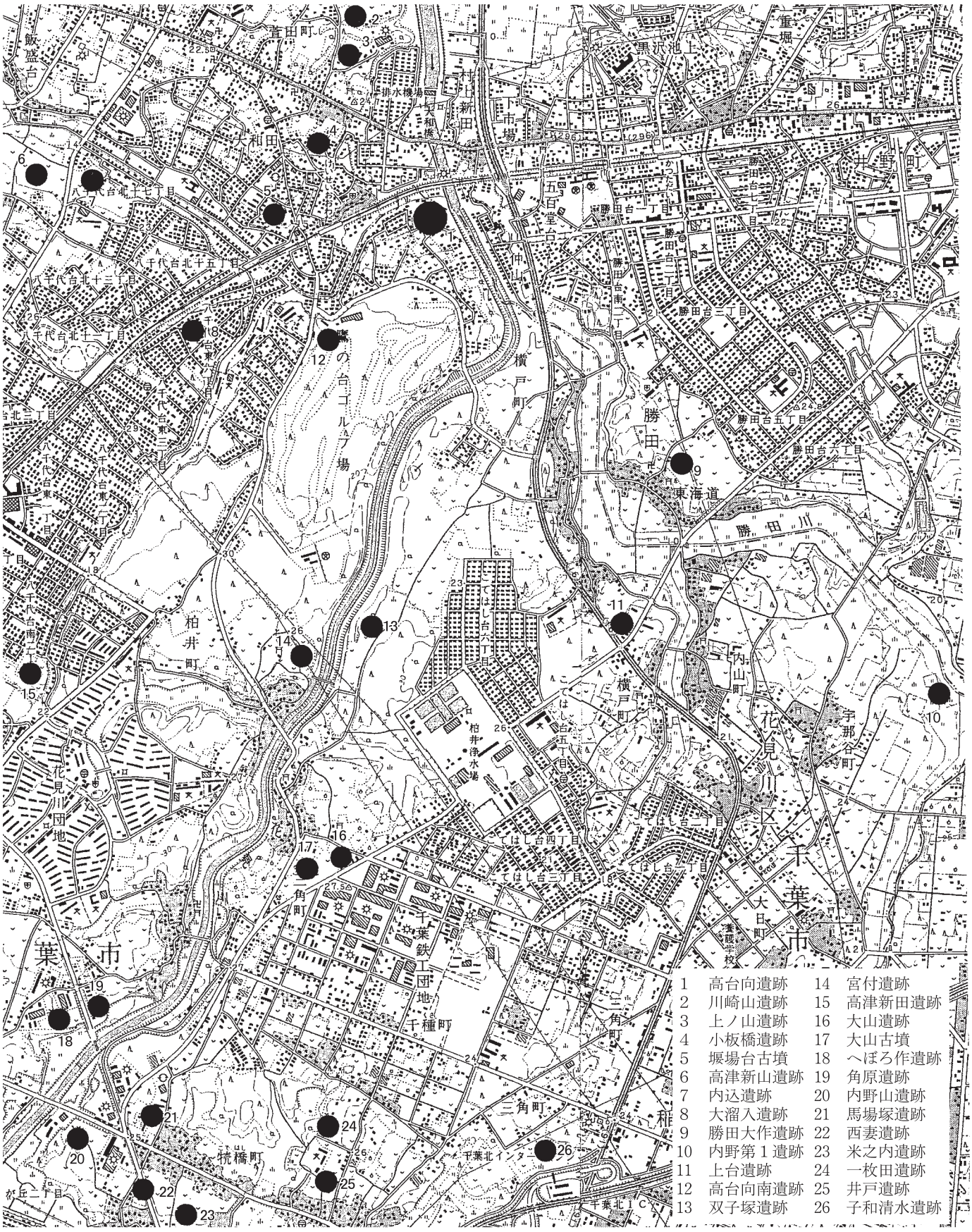
遺跡は昭和48年の分布調査で、高台向・高台向東遺跡とされ、縄文時代の茅山式・加曽利Ｅ３式と、古墳～平安時代の五領式～国分式土器の散布地とされており、今回の調査地点は高台向東遺跡にあたる。

第１次　確認調査　千葉市花見川区横戸町1,563-１他

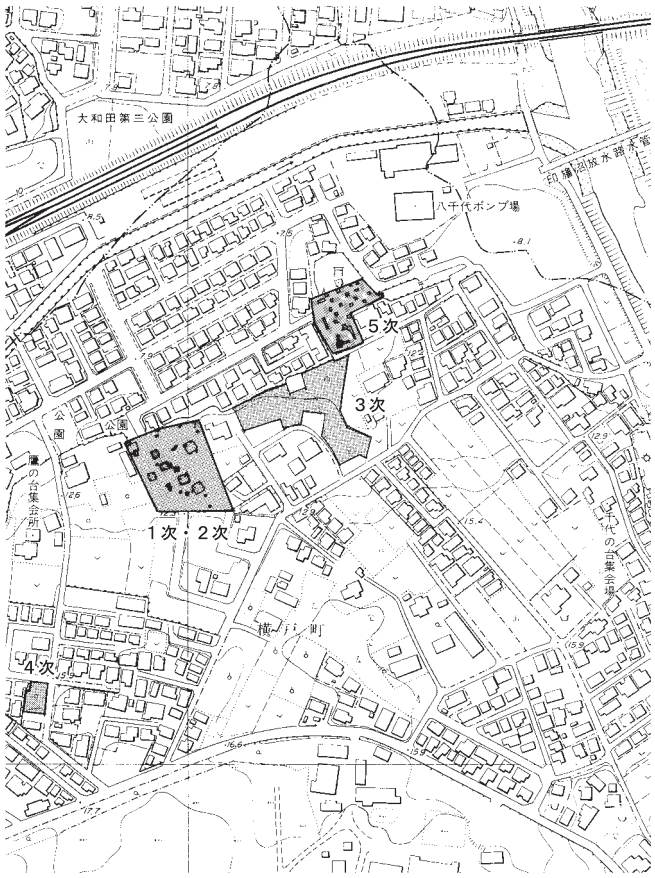
期間：昭和60年７月23日～７月27日　**対象面積**：176㎡／2,700㎡　**担当者**：青沼道文

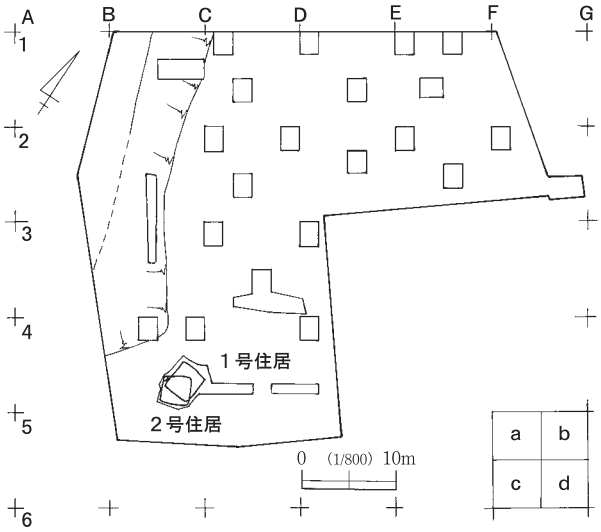
検出遺構：古墳時代住居跡12軒・縄文時代土壙３基

出土遺物：縄文土器（井草式・茅山式・黒浜式・加曽利Ｅ式・加曽利Ｂ式・安行１式）・石斧・石皿弥生土器・土師器（五領式～鬼高式）



第１図　周辺の遺跡分布図（国土地理院　1/2万5千「習志野」・「佐倉」）





第３図　調査区設定図

第２図　高台向遺跡調査地点図（千葉市都市図　1/5千）

第２次　本調査　千葉市花見川区横戸町1,563-１他

期間：昭和63年５月６日～８月５日　**対象面積**：3,000㎡　**担当者**：飛田正美

検出遺構：古墳時代住居跡７軒・平安時代住居跡２軒、縄文時代土壙16基・古墳時代土壙２基

出土遺物：縄文土器（井草・大丸・田戸下層・田戸上層・野島・黒浜・諸磯ａ・諸磯ｃ・浮島・粟島台・五領ヶ台・加曽利Ｅ式）・土製玦状耳飾３点・土錘２点・石鏃３点・石錐１点・打製石斧１点・凹石１点・磨石３点・弥生土器（後期）・土師器（五領式～国分式）

文献：飛田正美他　1985　『千葉市高台向遺跡』（財）千葉市文化財調査協会

第３次　確認調査　千葉市花見川区横戸町1,581-１他

期間：昭和63年８月24日～８月29日　**対象面積**：256㎡／2,580㎡　**担当者**：田中英世

検出遺構：なし　**出土遺物**：土師器（鬼高式）

文献：田中英世　1988「高台向遺跡」『昭和63年度千葉市内遺跡群発掘調査報告書』千葉市教育委員会

第４次　確認調査　千葉市花見川区横戸町1,589-１他

期間：平成元年１月29日　対象面積：33㎡／315㎡　**担当者**：飛田正美

検出遺構：なし　**出土遺物**：土師器１点

文献：飛田正美　1984「高台向遺跡」『平成元年度千葉市内遺跡群発掘調査報告書』千葉市教育委員会

第５次　確認・本調査　千葉市花見川区横戸町1,486-２他

期間：平成16年３月１日～３月30日　**対象面積**：1,322㎡　**担当者**：長原亘

検出遺構：平安時代住居跡２軒

出土遺物：縄文土器

３．調査の方法（第３図）

今回の調査は公園建設事業に伴う発掘調査で、標高９m～11mの斜面地である。事業計画地の北側ライン（K-34～K-35）に沿って、東から西へA～G、北から南へ１～６の10m方眼を設定、それを更に５m方眼ａ～ｄに分割し、公共座標に取り込んだ。Ｂ１がK-35、Ｆ１がK-34に相当し、遺構が確認できた地点を拡張・精査を行った結果、平安時代の竪穴住居跡２軒が重複して検出された。

Ⅲ．　検出された遺構と遺物

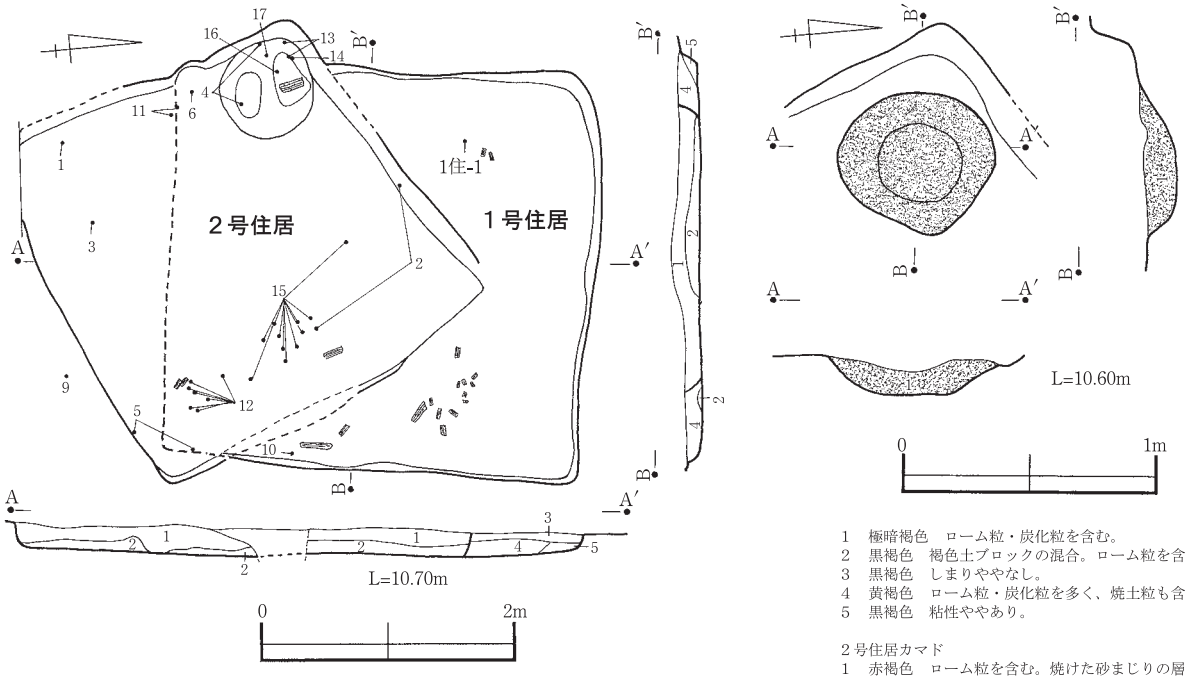
１．竪穴住居跡

第１号竪穴住居跡（第４図）**規模・形状**：東壁(3.30)m・西壁3.28m・南壁(3.10)m・北壁3.28m　正方形　**重複遺構**：第２号竪穴住居跡より旧　**壁高**：0.28m　**主軸方位**：N-7°-E　**床**：軟弱　**周溝**：なし　**柱穴**：なし　**遺物出土状況**：西側床面から甕(１)と長頸瓶(２)が出土

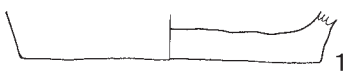
カマド（第４図）**位置**：不明

第２号竪穴住居跡（第４図）**規模・形状**：東壁2.96m・西壁(2.36)m・南壁3.10m・北壁2.70m　正方形　**重複遺構**：第１号竪穴住居跡より新　第１号竪穴住居跡を壊してカマドを構築　**壁高**：0.20m　**主軸方位**：N-21°-W　**床**：軟弱　**周溝**：なし　**柱穴**：なし　**遺物出土状況**：東側床面から坏(５)と甕(12・15)が、カマド付近から坏(４・６)と甕(11・13・14・16)と羽口(17)が出土

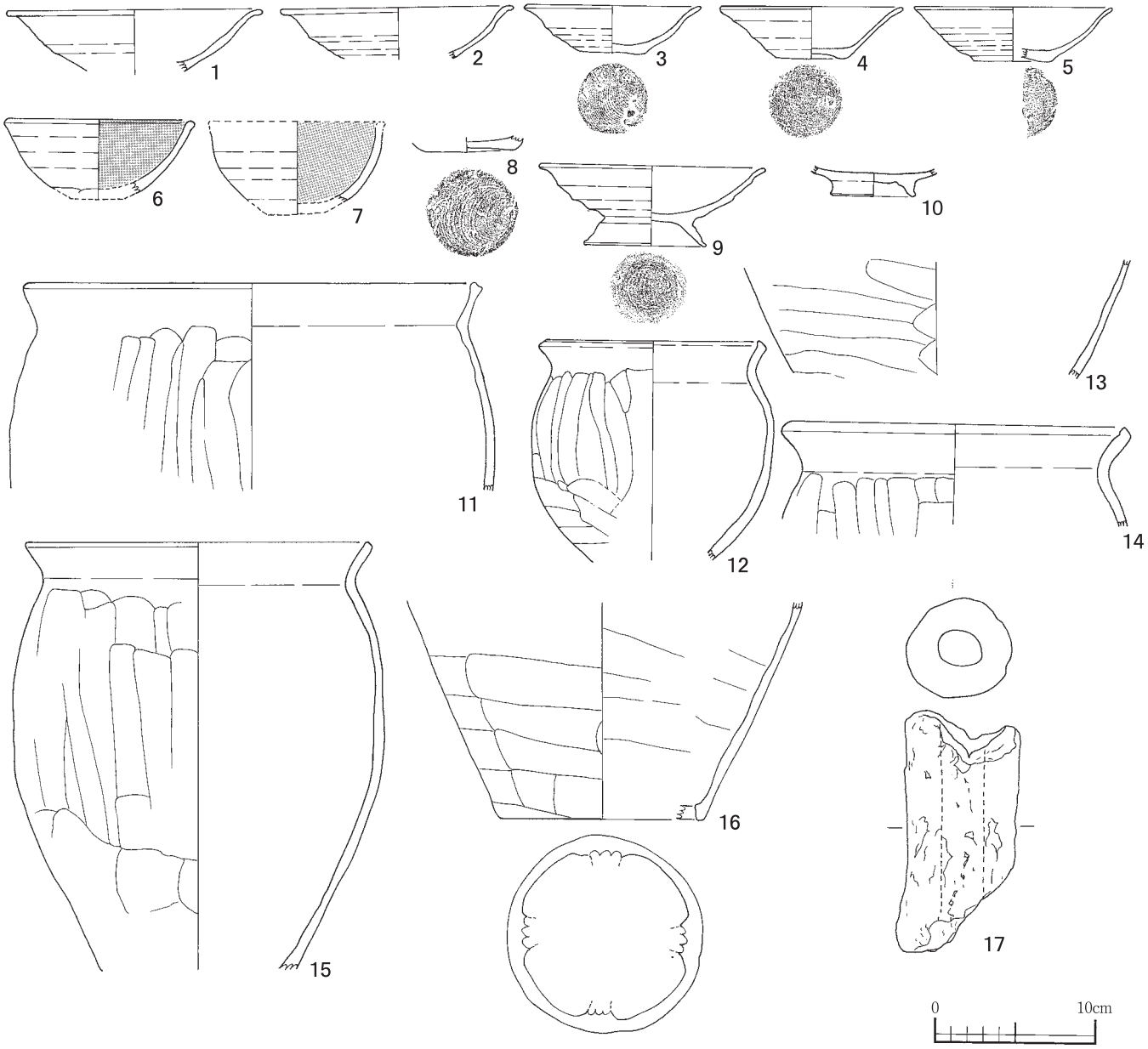
カマド(第４図)　**位置**：北西コーナー　**規模・形状**：主軸長1.10m・幅1.11m・壁高：0.30m　袖は抜かれて規模不明　**火床**：0.57×0.61-0.15m



第４図　第１・２号竪穴住居跡実測図



第５図　第１号竪穴住居跡遺物実測図



第６図　第２号竪穴住居跡遺物実測図

第１表　第１号竪穴住居跡遺物観察表

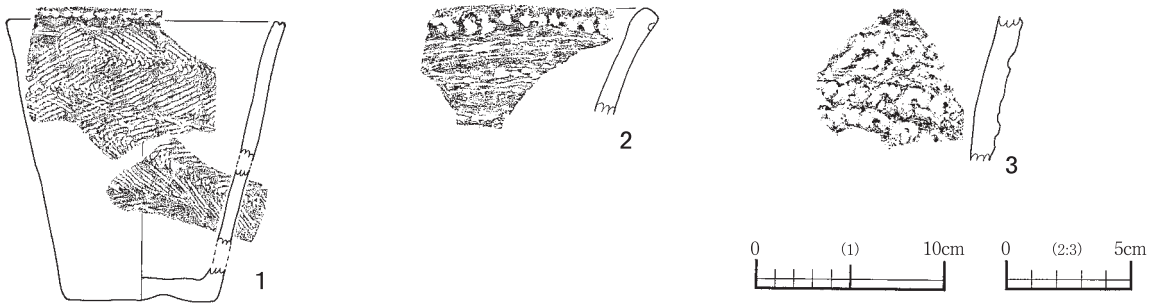
NO	器種	法　量		成　形・調　整	胎　　土	備　考	注記NO
1	甕	口径			胎土－白色砂粒を少良含む	底部のみ	75
	土師器	底径	15.8	体部下半－内外面横ナデ	色調－5ＹＲ5／8　明赤褐		
		器高	(2.5)		焼成－良		
2	長頸瓶	口径			胎土－緻密		一括
	須恵器	底径		頸部－ロクロ	色調－5ＹＲ5／1　褐灰		
		器高	(2.5)		焼成－良		

第２表　第２号竪穴住居跡遺物観察表

N0	器種	法量		成形・調整	胎土	備考	注記N0
1	坏	口径	(15.8)	体部－ロクロ	胎土－白色砂粒を多く含み､砂質	1／5	63・3区
	須恵器	底径			色調－5ＹＲ4／2　灰褐		
		器高	(3.8)		焼成－良		
2	坏	口径	(14.6)	体部－ロクロ	胎土－白色砂粒を多く含み､砂質	1／5	40・46
	須恵器	底径			色調－7.5ＹＲ3／1　黒褐		
		器高	(3.2)		焼成－良		
3	坏	口径	(11.0)	体部－ロクロ	胎土－白色砂粒を少量含む	口縁部一部欠損	13
	須恵器	底径	4.1	立上部－無調整	色調－7.5ＹＲ2／1　黒		
		器高	3.0	底部－回転糸切り→無調整	焼成－良		
4	坏	口径	11.4	体部－ロクロ	胎土－白色砂粒を多く含み､砂質	1／2	3・7・1住
	須恵器	底径	4.4	立上部－無調整	色調－7.5ＹＲ8／6　黄橙		
		器高	3.3	底部－回転糸切り→無調整	焼成－良		
5	坏	口径	(12.4)	体部－ロクロ	胎土－緻密	1／2	19・20
	須恵器	底径	(4.8)	立上部－無調整	色調－7.5ＹＲ6／4　にぶい橙		
		器高	3.5	底部－回転糸切り→無調整	焼成－良		
6	坏	口径	(12.0)	体部－ロクロ	胎土－大粒の砂粒を多く含み､砂質	体部上半1／3	10
	須恵器	底径		立上部－手持ちヘラ調整	色調－7.5ＹＲ3／2　暗褐		
		器高	(4.5)		焼成－良		
7	坏	口径	(11.0)	体部－ロクロ	胎土－大粒の砂粒を多く含み､砂質	体部上半1／3	2区
	須恵器	底径			色調－5ＹＲ3／1　黒褐		
		器高	(4.5)		焼成－良		
8	坏	口径		体部－ロクロ	胎土－白色砂粒を多く含む	底部	2区
	土師器	底径	5.4	立上部－回転ヘラ調整	色調－7.5ＹＲ5／4　にぶい褐		
		器高	(0.9)	底部－回転糸切り→無調整	焼成－良		
9	高台付坏	口径	14.0	体部－ロクロ	胎土－緻密	3／4	66
	土師器	底径	7.6	立上部－回転ヘラ調整	色調－5ＹＲ6／8　橙		
		器高	5.0	底部－回転糸切り→高台貼り付け→回転横ナデ	焼成－良		
10	高台付坏	口径		体部－ロクロ	胎土－白色砂粒を少良含む	底部	44
	須恵器	底径	5.2	立上部－回転ヘラ調整	色調－5ＹＲ5／6　橙		
		器高	(1.8)	底部－回転糸切り→高台貼り付け→回転横ナデ	焼成－良		
11	甕	口径	(27.6)	口縁部－内外面横ナデ	胎土－白色粒子・砂粒を含む	1／8	22～27・57
	土師器	底径		体部上半－外面・上→下のヘラ削り　内面　横ナデ	色調－5ＹＲ5／8　明赤褐		58・1区
		器高	(12.8)		焼成－良		
12	甕	口径	(14.2)	口縁部－内外面横ナデ	胎土－緻密	1／5	1・2・48
	土師器	底径		胴部上半－外面・上→下のヘラ削り　内面　横ナデ	色調－5ＹＲ5／8　明赤褐		
		器高	(13.7)	胴部下半－外面・左上→右下のヘラ削り　内面　横ナデ	焼成－良		
13	甕	口径			胎土－白色砂粒を多く含み､砂質	胴部下半1／2	11・12・2区
	須恵器	底径		胴部下半－外面・横のヘラ削り　内面　横ナデ　輪積痕	色調－5ＹＲ5／8　明赤褐		
		器高	(7.5)		焼成－良		
14	甕	口径	(21.1)	口縁部－内外面横ナデ	胎土－白色粒子・砂粒を含む		1
	土師器	底径		体部上半－縦のヘラ削り	外面・上→下のヘラ削り　内面　横ナデ	色調－5YR5/8　明赤褐	
		器高	(6.6)		焼成－良		
15	甕	口径	(21.5)	口縁部－内外面横ナデ	胎土－白色砂粒を多く含み､砂質	1／2	28・29
	土師器	底径	12.1	胴部上半－外面・上→下のヘラ削り　内面　横ナデ	色調－10ＹＲ6／4　にぶい黄橙		31～38・45
		器高	26.8	胴部下半－外面・左→右のヘラ削り　内面　横ナデ	焼成－良		
16	甑	口径			胎土－白色砂粒を多く含み､砂質	胴部下半	48
	須恵器	底径	12.6	胴部下半－外面・右→左のヘラ削り　内面　横ナデ　輪積痕	色調－2.5ＹＲ4／6　赤褐		
		器高	(13.5)		焼成－良		
17	羽口	外径	7.0				
		内径	2.6				
		長	(15.0)				

２．調査区出土遺物

今回の調査で縄文時代前期の土器３点が出土している。１は羽状縄文と結節縄文を施す土器で、口縁端部に指頭圧痕と口唇部に２本のヘラ先による刺突を有する。前期終末の粟島台式土器と思われる。２は口縁端部の圧痕と貝殻押し引き文に特徴付けられ、浮島式土器に比定され、３は関山式土器に比定される。



第７図　調査区出土遺物実測図

Ⅳ．まとめ

１．縄文時代

今回の調査で縄文時代前期の関山式・浮島式・粟島台式土器が検出されれた。高台向遺跡では縄文時代の遺構は検出されていないが、第２次調査では早期の井草Ⅰ・Ⅱ式土器と前期の黒浜・浮島・諸磯ｃ式から中期前半の五領ヶ台式土器の良好な資料が出土しており、北側の崖線寄りに遺物が集中し、台地奥部は希薄になることが指摘されている。周辺の遺跡との関係については、３で述べる。

２．古墳時代

高台向遺跡からは今回の調査を含めて古墳時代後期の竪穴住居跡７軒と平安時代の竪穴住居跡４軒が検出されている。当遺跡の台地南側には前方後円墳の高台南古墳がある他、鷹の台ゴルフ場内にもさらに数基の古墳が存在する可能性もあり、これらの古墳との関係が問題となってくる。

３．千葉市北部の遺跡と高台向遺跡

第８図と第３表は千葉市北部の遺跡分布図である。千葉市内の、縄文時代早期撚糸文の遺跡は、原田昌幸氏により集成されており（註１）、当遺跡（18）では第１・２様式、へぼろ作遺跡（30）では第４・５様式と山形押型文が、上ノ台遺跡Ｄ地区（45）では第２様式、大道遺跡（46）では第３様式、新堀遺跡（79）では第３様式の土器が出土している。早期後半の条痕文の遺跡は、大道（46）・長作城山（34）・上ノ台（45）・大山（35）・清水作（53）・新堀（79）の各遺跡があり、長作城山・清水作両遺跡は地点貝塚を形成する。大道遺跡では竪穴住居跡１軒と炉穴51基、長作城山貝塚でも炉穴22基が検出され、習志野市の花咲貝塚（16）でも竪穴住居跡が検出されている。これらの遺跡は幕張町北側の台地に集中しており、南側の鳥喰貝塚群と共に、千葉市北部域の集中地点を形成している。前期前半の遺跡は実籾３丁目貝塚（15）から関山式期の竪穴住居跡が検出されている他は、まだ不明な点が多い。前期後半～中期初頭の遺跡としては、後口（36）・子和清水（62）・一枚田（67）・新堀（79）・房地（87）遺跡等が挙げられる。一枚田・房地遺跡は、分布調査では当該期の遺物は発見されずに発掘調査により検出され、これからの調査の進展で増加する可能性が大きい。当遺跡からは五領ヶ台式土器が出土しているが、周辺では子和清水遺跡のみである。当地域では次の阿玉台式～加曽利Ｅ２式期の時期に、遺跡の大きな空白

期間がある。中期後半の加曽利Ｅ３式期では、地蔵作（33）・奈良熊（54）・天戸なぎ（57）・内野山（64）・米之内（65）・馬場塚（74）・新山（75）・歯貫（76）・屋敷西（86）遺跡等の中期後半を主体とする遺跡と、内野第１遺跡（23）のように後期に環状集落を形成する遺跡がある。地蔵作遺跡では加曽利Ｅ３式期の竪穴住居跡３軒と貝ブロックが、馬場塚遺跡からも加曽利Ｅ３～堀之内１式期の竪穴住居跡４軒と貝ブロックが検出されている。長作築地（29）・犢橋貝塚（84）のように、後期に環状貝塚を形成する遺跡もこの時期に集落を形成している可能性が高い。また、井戸（61）遺跡では試掘調査で加曽利Ｂ式期の貝ブロックが検出されており、同一台地上に展開する一枚田(67)・井戸(61)・居畑(68)・筵辺北(70)・筵辺（77）の各遺跡は、加曽利Ｅ３～加曽利Ｂ式期の間に、時期毎に地点を変えて移動している可能性がある。こうような遺跡の動きは、花園川流域の小中台遺跡を中心とした遺跡群に明確に認められる。また、花見川下流の東京大学グランド内には、安行２～３ａ式土器を出土する地点があり、花見川下流の中心的遺跡として、犢橋貝塚（84）を位置付けることができる他、内陸部に展開する沢向（24）・沢向東（26）・内野第４（28）・こてはし台北（39）・内野第３（41）・内山（42）・大日神社裏（44）遺跡のよ

第８図　千葉市北部地域の遺跡分布図（国土地理院　1/5万「佐倉」・「千葉」）

うな加曽利Ｂ式期の小規模な遺跡は、花見川流域の長作築地・犢橋貝塚や井戸遺跡から勝田川流域の内野第１遺跡へ、東京湾岸から印旛沼南岸地域への貝類等の流通経路を示している可能性がある。後期の環状集落が廃絶後の晩期後半の遺跡としては、子和清水（62）・房地（87）遺跡が花見川最奥部に存在し、新川流域の高津新山（５）・川崎山d地点（１）・高津新田（８）遺跡や屋敷貝塚（11）等でも断片的に遺物が出土している。

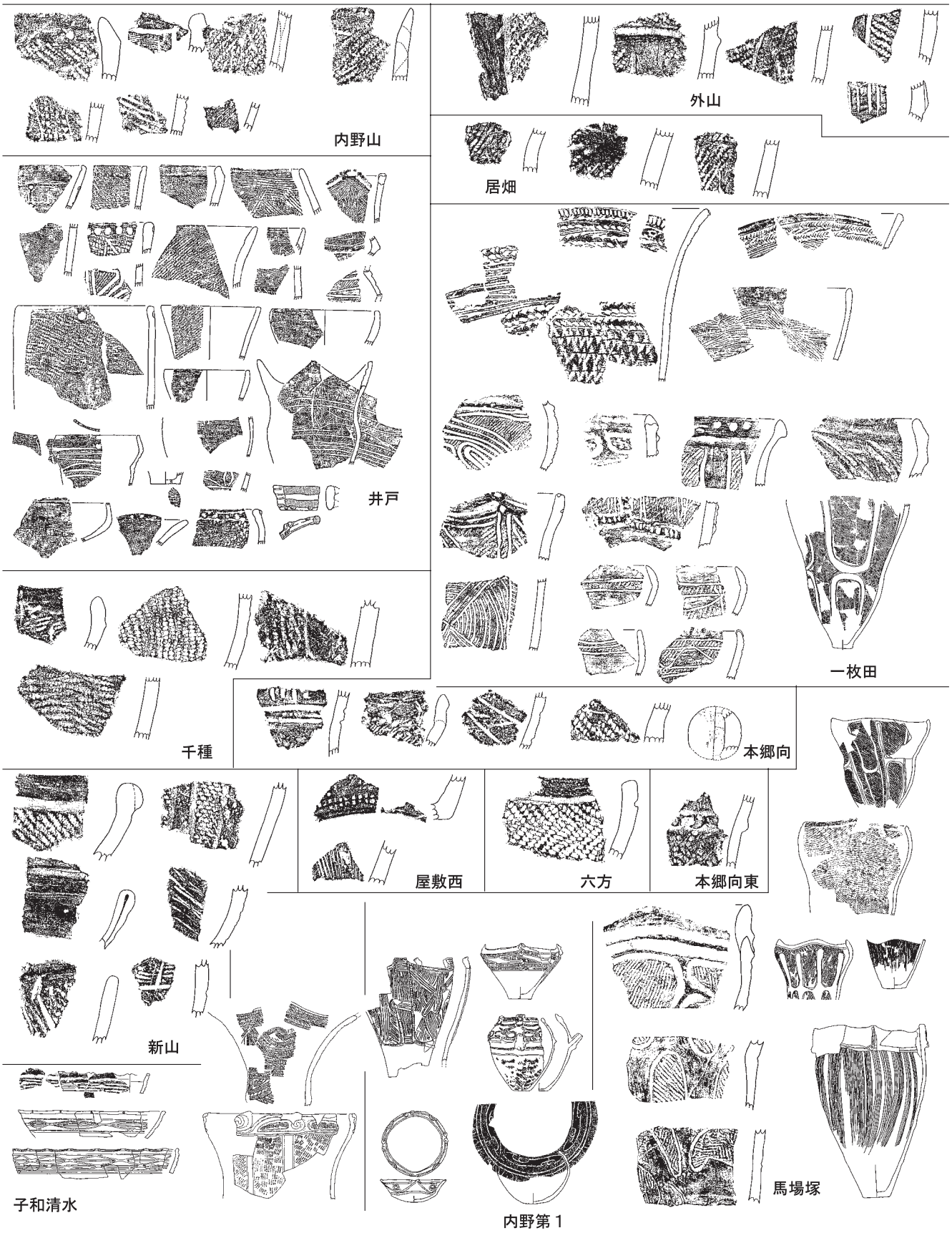
弥生時代以降では、新川流域に弥生時代後期～古墳時代前期の竪穴住居跡54軒が検出された川崎山遺跡（１）・弥生時代後期の竪穴住居跡５軒が検出された上ノ山遺跡（２）、勝田川流域に弥生時代後期～古墳時代後期の竪穴住居跡９軒が検出された勝田大作遺跡（９）、古墳時代前期～古墳時代中期の竪穴住居跡281軒・古墳16基が検出された内野第１遺跡（23）があり、高津川流域には古墳時代中・後期の竪穴住居跡15軒と工房跡が検出された小板橋遺跡（３）、古墳時代前期～平安時代の竪穴住居跡139軒と掘立柱建物跡21棟が検出された高津新山遺跡（５）、古墳時代中期～平安時代の竪穴住居跡20軒と掘立柱建物跡５棟が検出された内込遺跡（６）がある。この他、箱式石棺と人骨７体が検出された堰場台古墳（４）や前方後円墳の高台向南古墳（19）、直径22.5m～24mの円墳である双子塚古墳（21）がある。特に、高台向南古墳は高台向遺跡と同じ台地上にあり、高台向南古墳が存在する鷹の台ゴルフ場内にはさらに数基の古墳の存在が予想され、これらの古墳群と高台向遺跡との関係が重要な問題となる。

花見川流域では古墳時代中期～平安時代の竪穴住居跡11軒が検出された新堀（79）、古墳時代後期の竪穴住居跡２軒が検出された福寿院遺跡（58）、奈良・平安時代の竪穴住居跡１軒と方形周溝状遺構が検出された木ノ内遺跡（59）、弥生時代後期と古墳時代後期の竪穴住居跡２軒が検出された西妻遺跡（66）、

第３表 千葉市北部地域の遺跡地名表

NO	遺跡名	時　期	遺　構	踏査No	市No	県No
1	川崎山	夏･田･黒･十三･阿･加E･久～五	住居54(弥生～古墳)			八-241
2	上ノ山	久	住居5(弥生後期)			八-243
3	小坂橋	和･鬼	住居15(古墳中･後期)			八-245
4	堰場台	古墳	箱式石棺･人骨			八-271
5	高津新山	久～国	住居139(古墳～平安)･掘立21			八-239
6	内込	阿･和～国	住居20(古墳～平安)･掘立5			八-246
7	大溜入	諸･黒				八-247
8	高津新田		住居･空堀			八-250
9	勝田大作	加B･久～鬼	住居9(弥生後期～古墳後期)			八-254
10	新東原	加E･加B				八-259
11	屋敷	加E～加B	住居1(加B)･馬蹄形貝塚			習-28
12	屋敷南	加E				習-29
13	辰巳台	堀				習-33
14	実籾1丁目	堀	地点貝塚			習-34
15	実籾3丁目	関～加E	住居2(関)･馬蹄形貝塚			習-35
16	花咲	茅山	住居(茅山)			
17	花咲台	古墳･石製模造品				
18	高台向	茅(-)鬼･国(-)	同一遺跡		A-5-2	花-1
	高台向東	加E3(-)･五(-)･鬼(±)		A-4-1	A-5-1	花-1
19	高台向南		前方後円墳			花-8
20	なぎ	撚･浮･黒･五			B-5-1	花-10
21	双子塚		円墳		B-5-3	花-3
22	宮附	五(-)	土壙･溝			花-7
23	内野第1	加E3～安3c	住居439(縄文125･古墳314)	B-5-1~5	B-6-1	花-23
			古墳16･人骨13			
24	沢向	加B(-)･五(-)	同一遺跡	A-4-3	B-6-2	花-18
	沢向南	加E(-)･五(±)		B-4-11	B-6-6	花-18
25	上台	諸(-)･加E3(-)･加B(-)		B-4-6	B-6-5	花-5
26	沢向東	加B(-)･国(±)		A-4-5	B-6-8	花-19
27	沢下西	縄文土錘		B-4-12	B-6-10	花-21
28	内野第4	加B(-)･和(-)			B-6-13	花-17
29	長作築地	称～加B(±)･安2	馬蹄形貝塚･貯蔵穴	C-2-8	C-3-1	花-30
30	へぼろ作	撚糸(夏･稲･花)･関･土師			C-4-2	花-40
31	南門原	加E2(±)		B-2-3	C-4-4	花-33
32	西門原	加E2(-)･安3b(-)･土師(-)		B-2-2	C-4-5	花-34
33	地蔵作	加E3	住居3(加E3)	B-2-5	C-4-6	花-35
34	長作城山	茅山上層(-)	炉穴22		C-4-7	花-36
35	大山	茅･花･浮		B-4-5	C-5-1	花-13
36	後口	早期中葉(-)･諸b(-)		B-4-3	C-5-2	花-14
37	千種	縄文後期(-)		C-4-9	C-5-4	花-47
38	角原	縄文(-)･久ケ原(-)･北関東(-)		C-3-1	C-5-6	花-46
39	こてはし台北	加B(-)･五(±)･鬼(-)		B-4-10	C-6-1	花-25
40	こてはし台	加E2(-)		B-4-10	C-6-2	花-50
41	内野第3	加B(-)			C-6-3	花-126
42	内山	加B(-)		B-4-15	C-6-4	花-22
43	成ケ沢	安2(-)			C-6-5	花-6
44	大日神社裏	加B(-)			C-6-6	C-6-6	花-53
45	上ノ台	早･前期･和～真	住居(古墳300以上)			D-2-1	花-27
46	大道	撚･茅･花積	住居1(花積下層)･炉穴55			D-2-2	
47	ムジナ山	縄文(-)･国(-)			C-2-15	D-3-1	花-56
48	馬加城跡	宮ノ台･鬼高	住居6(弥生中2･古墳後4)			D-3-2	花-60
49	宮脇	五･和･國	住居13(古墳前･中12･平安1)			D-3-3	花-77
50	権現越	加B(-)･国(-)			C-2-1	D-3-5	花-69
51	奈良熊南	土師	地点貝塚		C-2-13	D-3-6	花-70
52	奈良熊外野	国(-)			C-3-4	D-3-8	花-63
53	清水作	野(-)･茅(+)			C-2-13	D-3-10	花-59
54	奈良熊	加E3～4･国(-)	地点貝塚		C-2-12	D-3-12	花-65
55	武石	堀～安行　久ケ原　土師　中世	掘立1(奈良･平安)･地点貝塚			D-3-13	花-74
56	坊辺田	前期(-)･五･和			C-3-9	D-4-1	花-37
57	天戸･なぎ	加E(-)･弥生後期(-)･国(-)			B-3-2	D-4-2	花-42
58	福寿院	鬼高	住居2(古墳後)			D-4	花-45
59	木ノ内	加E(五平山遺跡)	住居1(奈良･平安)･方形周溝1			D-4-8	花-82
60	次山東	加E(-)･土師(-)				D-4-10	花-84
61	井戸	加E3～加B	地点貝塚(加B)		C-4-7	D-5-1	花-107
62	子和清水	黒～前期末･加E～堀･千	住居10(前期7･加E22･称1)			D-6-1	花-52
63	子和清水西	諸(-)･安Ⅱ(-)･五(-)	同一遺跡			D-5-2	花-51
64	内野山	加E2～3(-)･安(-)			C-3-18	D-5-3	花-108
		弥生後期(-)･土師(-)					
65	米之内	加E3(+)･堀(-)･加B(-)･五(-)			C-3-15	D-5-4	花-109
66	西妻	撚･縄文中･後･前～五	住居2(弥生後1･古墳前1)			D-5-5	花-110
67	一枚田	浮･加E3～加B･弥生後期(-)	埋設土器1(加E4)		C-4-8	D-5-6	花-111
68	居畑	加E(-)			C-4-6	D-5-7	花-112
69	外山	加E2(±)･土師			C-4-5	D-5-8	花-113
70	筵辺北	後期(-)･五(-)			C-4-3	D-5-9	花-114
71	塙名木	縄文(-)				D-5-10	花-115
72	芝野	加E(-)				D-5-11	花-116
73	内野山南	加E(-)･五(-)			C-5-10	D-5-12	花-117
74	馬場塚	加E3～堀	住居4(加E3-3･堀1)･貝			D-5-13	花-118
75	新山	加E3(±)			D-4-3	D-5-14	花-119
76	歯貫	加E3(±)				D-5-15	花-120
77	筵辺	縄文(-)･和(-)				D-5-17	花-122
78	本郷向	宮ノ台･五領	住居7(弥生中1･古墳前6)		D-4-5	D-5-19	花-124
79	新堀	粂･浮･加E･千	住居13(古墳中8･後1･平4)			D-5-20	花-125
80	上鶴巻	鬼～國	住居6(古墳～奈良)			E-4-4	花-93
81	中谷	加B				E-4-11	花-103
82	箕輪	五･和	住居21(古墳前～中)			E-4	花-100
83	本郷向南	加B1(-)			D-3-3~6	E-5-2	花-127
84	犢橋	堀～安3b	馬蹄形貝塚			E-5-3	花-105
85	屋敷	加E(-)･加B(-)				E-6-1	稲-15
86	屋敷西	加E3(±)			D-4-4	E-6-2	稲-16
87	房地	浮～荒･御代田･宮	住居2(浮1･加3-1)			E-5-4	稲-16

第９図　千葉市北部地域の分布調査資料（1）



第10図　千葉市北部地域の分布調査資料（2）

千葉市北部地域の遺跡調査文献

1	八千代市遺跡調査会	1979	『萱田町川崎山遺跡発掘調査報告書』
	八千代市教育委員会	1992	『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書－平成３年度－』
	八千代市教育委員会	1994	『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書－平成５年度－』
	八千代市教育委員会	1994	『平成６年度　八千代市埋蔵文化財調査年報』
	八千代市教育委員会	1998	『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書－平成９年度－』
	八千代市教育委員会	1999	『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書－平成10年度－』
	八千代市教育委員会	1999	『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書－平成11年度－』
	八千代市川崎山遺跡調査会	1999	『千葉県八千代市川崎山遺跡埋蔵文化財発掘調査報告書』
	八千代市教育委員会	2000	『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書－平成12年度－』
	八千代市教育委員会	2002	『千葉県八千代市不特定遺跡発掘調査報告書』
	八千代市教育委員会	2003	『千葉県八千代市公共事業関連遺跡発掘調査報告書』
	八千代市遺跡調査会	2003	『千葉県八千代市川崎山遺跡ｄ地点』
	八千代市遺跡調査会	2004	『千葉県八千代市川崎山遺跡h地点』
2	八千代市教育委員会	1994	『平成６年度　八千代市埋蔵文化財調査年報』
	八千代市上ノ山遺跡調査会	2000	『千葉県八千代市上ノ山遺跡ｂ・ｃ地点発掘調査報告書』
	八千代市教育委員会	2003	『千葉県八千代市上ノ山遺跡発掘調査報告書』
5	八千代市教育委員会	1983	『』千葉県八千代市高津新山遺跡－昭和57年度確認調査の概要－』
	八千代市教育委員会	1984	『千葉県八千代市高津新山遺跡－昭和58年度確認調査の概要－』
6	八千代市教育委員会	1995	『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書－平成６年度－』
	八千代市教育委員会	1996	『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書－平成８年度－』
	八千代市遺跡調査会	2001	『千葉県八千代市内込遺跡発掘調査報告書』
	八千代市教育委員会	2003	『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書－平成14年度－』
	八千代市遺跡調査会	2003	『千葉県八千代市内込遺跡b地点発掘調査報告書』
8	八千代市教育委員会	1991	『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書－平成２年度－』
	八千代市教育委員会	1993	『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書－平成４年度－』
	八千代市教育委員会	1988	『千葉県八千代市高津新田野馬堀』
10	八千代市遺跡調査会	2004	『千葉県八千代市新東原遺跡ａ地点発掘調査報告書』
	八千代市教育委員会	2003	『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書－平成14年度－』
	八千代市教育委員会	2005	『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書－平成16年度－』
11	習志野市教育委員会	2000	『千葉県習志野市所在埋蔵文化財発掘調査報告書－実籾城跡Ａ地点・屋敷貝塚Ａ地点－』
15	習志野市教育委員会	2003	『』千葉県習志野市実籾３丁目遺跡（６）発掘調査報告書』
	習志野市教育委員会	2003	『千葉県習志野市市内遺跡発掘調査報告書－平成14年度－』
16	堀部昭夫	1969	「習志野市花咲貝塚発掘調査概報」『貝塚博物館紀要』第４号　千葉市立加曽利貝塚博物館
	習志野市教育委員会	1971	『習志野市花咲貝塚調査報告』
17	習志野市教育委員会	1997	『花咲新田台遺跡』
	習志野市教育委員会	2001	『千葉県習志野市市内遺跡発掘調査報告書－平成12年度－』
21	（財）千葉県文化財センター	1983	『千葉市双子塚』
22	千葉市遺跡調査会	1985	『宮附遺跡発掘調査報告書』
23	田中英世	1993	「加曽利貝塚博物館所蔵の千葉市宇那谷町（内野第１遺跡）出土土製品３例」『博物館紀要』第20号　千葉市立加曽利貝塚博物館
	千葉市教育委員会		『内野第１遺跡発掘調査報告書』
	古谷渉	2003	「千葉市内野第１遺跡出土の紐線文系土器群」『埋蔵文化財調査センタ年報15－平成13年度－』　千葉市教育振興財団埋蔵文化財調査センター
	田中英世	2004～08	「千葉市内野第１遺跡出土の縄文時代資料補遺（１）～（３）」『埋蔵文化財調査センター年報16～18』　千葉市教育振興財団埋蔵文化財調査センター
	田中英世	2004	「千葉市出土の人面土版」『博物館紀要』第31号　千葉市加曽利貝塚博物館
	田中英世	2005	「千葉市内野第１遺跡出土の石棒・石剣」『博物館紀要』第32号　千葉市加曽利貝塚博物館
	田中英世	2006	「千葉市内野第１遺跡出土の縄文時代晩期の土器群」『博物館紀要』第33号　千葉市加曽利貝塚博物館
	田中英世	2007	「井戸遺跡と内野第１遺跡」『博物館紀要』第34号　千葉市加曽利貝塚博物館
29	千葉県教育委員会	1960	『印旛・手賀沼周辺地域埋蔵文化財調査（第１次）』
30	千葉市教育委員会	1989	「へぼろ作遺跡」『埋蔵文化財調査（市内遺跡）報告書－昭和63年度－』
33	地蔵作遺跡発掘調査団	1997	『千葉県千葉市地蔵作遺跡発掘調査報告書』
34	千葉県教育委員会	1960	『印旛・手賀沼周辺地域埋蔵文化財調査（第１次）』
	千葉県教育委員会	1964	『千葉県城山貝塚　千葉県遺跡調査報告書』
	千葉市教育委員会	1989	「長作城山遺跡」『埋蔵文化財調査（市内遺跡）報告書－平成16年度－』
45	千葉県都市公社	1973	『千葉市上ノ台遺跡』
	千葉市教育委員会	1975	『千葉・上ノ台遺跡第１次調査概報』
	千葉市教育委員会	1975	『千葉・上ノ台遺跡第Ⅱ次調査概報』
	千葉市教育委員会	1981～83	『千葉・上ノ台遺跡』
	千葉市教育委員会	1982	『千葉・上ノ台遺跡』
46	千葉市教育委員会	1981	「大道遺跡」『千葉市文化財調査報告書第４集』
48	馬加城遺跡調査会	1980	『馬加城遺跡発掘調査報告書』
49	宮脇遺跡発掘調査団	1973	『宮脇』
55	日本文化財研究所	1977	『武石遺跡・武石館調査報告』
58	（財）千葉市文化財調査協会	1994	『福寿院遺跡』
62	（財）千葉市文化財調査協会	1987	『千葉市子和清水遺跡・房地遺跡・一枚田遺跡』
66	千葉市教育委員会	1989	「西妻遺跡」『埋蔵文化財調査（市内遺跡）報告書－昭和63年度－』
67	（財）千葉市文化財調査協会	1987	『千葉市子和清水遺跡・房地遺跡・一枚田遺跡』
74	（財）千葉市文化財調査協会	1987	『千葉市馬場塚遺跡』
78	千葉市遺跡調査会	1982	『本郷向』
79	千葉市遺跡調査会	1985	『新堀遺跡発掘調査報告書』
80	（財）千葉市文化財調査協会	1994	『千葉市上鶴牧遺跡－平成５年度発掘調査報告書－』
84	上田英吉	1887	「下総國千葉郡介虚記」『東京人類学会雑誌』２－19　東京人類学会
	長谷部言人	1925	「下総犢橋貝塚の猿下顎骨」『人類学雑誌』40－12　東京人類学会
	宮内悦蔵	1925	「下総犢橋貝塚遠足會之記」『人類学雑誌』40－12　東京人類学会
	吉田格	1951	「千葉市犢橋貝塚」『考古学ノート』５
	武田宗久	1952	『千葉市誌』千葉市
	戸沢充則	1956	「雨の犢橋貝塚」『ミクロリス』14　日本考古学協会
	向坂鋼二	1961	「千葉県千葉市犢橋貝塚」『日本考古学年報』９　日本考古学協会
	戸沢充則	1964	「千葉市犢橋貝塚」『日本考古学年報』16　日本考古学協会
	早川智明	1965	「所謂安行式土器について」『台地研究』16　台地研究会
	神尾明正	1965	『千葉市犢橋貝塚　千葉県遺跡調査報告書』
	戸沢充則	1969	「千葉県千葉市犢橋貝塚（第２次）」『日本考古学年報』17　日本考古学協会
	千葉市	1976	『千葉市史』
	立正大学学園	1990	「犢橋貝塚」『吉田格コレクション考古資料図録』
	明治大学考古学博物館	1991	「縄文晩期の世界」『明治大学考古学博物館蔵品目録』２
	四柳隆	2000	「犢橋貝塚」『千葉県の歴史　資料編　考古１（旧石器・縄文時代）』　千葉県
	田中英世	2004	「千葉市出土の人面土版」『博物館紀要』第31号　千葉市加曽利貝塚博物館
82	（財）千葉県文化財センター	1985	『千葉市箕輪遺跡』
87	（財）千葉市文化財調査協会	1987	『千葉市子和清水遺跡・房地遺跡・一枚田遺跡』

（番号は第８図・第３表の遺跡番号に符合）

古墳時代後期の竪穴住居跡１軒が検出された一枚田遺跡（67)、弥生時代中期の竪穴住居跡１軒と古墳時代前期の竪穴住居跡６軒が検出された本郷向遺跡（78)、古墳～奈良時代の竪穴住居跡６軒が検出された上鶴牧遺跡（77)、古墳時代前～中期の竪穴住居跡11軒が検出された箕輪遺跡（82）等がある。海岸沿いには古墳時代の竪穴住居跡300軒以上が検出された上ノ台遺跡（45）や弥生時代中期の竪穴住居跡２軒と古墳時代後期の竪穴住居跡６軒が検出された馬加城跡（48）が存在する。高台向遺跡でも弥生式土器が断片的に出土しており、周辺に弥生時代の遺構が存在した可能性も考えられる。

註１　原田昌幸他　1994　「小山遺跡　縄文時代」『土気南遺跡群Ⅵ』（財）千葉市文化財調査協会

猪鼻城跡

Ⅰ．調査に至る経緯

千葉市都市局公園緑地部公園建設課は、亥鼻公園再整備事業を計画し、市教育委員会文化課に事業計画を示し協議を行った。市文化課では、周辺一帯が中世の猪鼻城跡にあたることから、公園内にある市立郷土博物館を含めた遺跡の性格を生かした整備計画を要請、その一環として、遺跡の状況把握のための確認調査を行うことになり、(財)千葉市教育振興財団埋蔵文化財調査センターに調査を委託し, 平成14・15・16年に調査が行われた。

Ⅱ．遺跡の環境と立地

１．遺跡の位置と立地

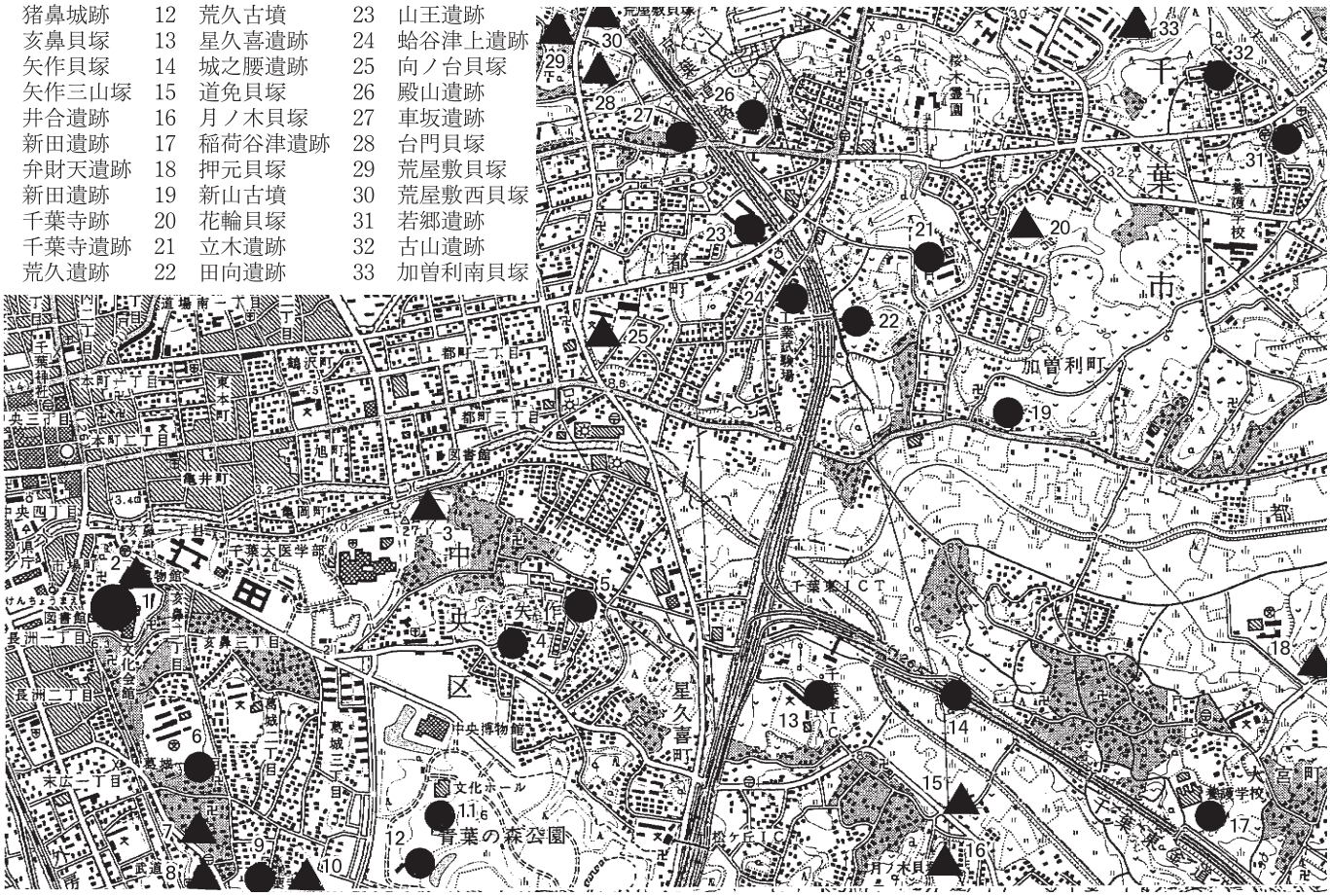
猪鼻城跡は、千葉市の市街地を北に臨み、下総台地が北西方向に突き出す標高20mの台地先端に位置し、亥鼻公園・千葉市立郷土博物館・千葉県文化会館・千葉大学医学部等の施設が大きく占めている。

台地上には、猪鼻城跡の他に、縄文時代の亥鼻貝塚や矢作貝塚、弥生時代の猪鼻遺跡や市場第１・第２遺跡、古墳時代の井合遺跡がある。亥鼻貝塚は加曽利Ｅ式～安行２式期とされているが、裁判所建設時に貝が運び出され、詳細は解らない（第４表註１)。矢作貝塚は、武田宗久氏をはじめ多くの調査が行われ、縄文時代の堀之内１式・２、式期の竪穴住居跡８軒以上と人骨62体、弥生～古墳時代の竪穴住居跡７軒が検出され、井合遺跡では、過去４回の調査で古墳時代の竪穴住居跡４軒と、方形周溝状遺構３基が検出されている。また平成14年の千葉大学構内の調査では、全長24mの前方後円墳が検出されている。

２．過去の調査

昭和48（1973）年に主郭土塁中から古瀬戸の蔵骨器が出土して以来、猪鼻城跡は過去14回発掘調査が行われ、調査地点も、亥鼻公園・千葉市立郷土博物館・千葉大学医学部構内・亥鼻３丁目公園と広範囲におよぶ。今回報告するのは、千葉市による亥鼻公園整備事業に伴い行なわれた、平成14年２月15日～３月15日・平成15年５月26日～平成16年１月30日・平成16年10月14日～11月12日の３回の調査結果である。平成８年の千葉市立郷土博物館別館建設に伴う調査と、平成13年の亥鼻３丁目公園建設に伴う調査

1	猪鼻城跡	12	荒久古墳	23	山王遺跡
2	亥鼻貝塚	13	星久喜遺跡	24	蛤谷津上遺跡
3	矢作貝塚	14	城之腰遺跡	25	向ノ台貝塚
4	矢作三山塚	15	道免貝塚	26	殿山遺跡
5	井合遺跡	16	月ノ木貝塚	27	車坂遺跡
6	新田遺跡	17	稲荷谷津遺跡	28	台門貝塚
7	弁財天遺跡	18	押元貝塚	29	荒屋敷貝塚
8	新田遺跡	19	新山古墳	30	荒屋敷西貝塚
9	千葉寺跡	20	花輪貝塚	31	若郷遺跡
10	千葉寺遺跡	21	立木遺跡	32	古山遺跡
11	荒久遺跡	22	田向遺跡	33	加曽利南貝塚



第11図　周辺の遺跡分布図（国土地理院　1/2万5千「千葉東部」）

第４表　周辺遺跡調査一覧表

遺跡名	調査期間	調査者	面積	検出遺構	報告
矢作貝塚	S13(1928)・3・28～3・27	武田宗久		住居1(堀之内1)・埋設土器1(堀之内1)・人骨7(合葬)	1
	S13(1928)・4・17～4・22	武田宗久			
	S18(1933)・4・25～5・10	鈴木尚・酒詰仲男・東京大学		昭和13年調査の人骨の回収・人骨17～18体・晩期集中地点	2
	S24(1979)・4	酒詰仲男・京成文化会			2
	S32(1957)・3・24～4・5	武田宗久・千葉市文化会		住居1(堀之内1)	3
	S55(1980)・4・1～11・17	千葉県文化財センター	1,433	住居21(堀之内6・弥生～古墳15)	4
	H3(1991)・4・1～8・30	千葉県文化財センター	850	住居14(古墳～平安)・竪穴状遺構(弥生～平安)	5
矢作三山塚	S53(1978)・7・15～7・18	矢作三山塚発掘調査団		炉穴5(条痕文)・住居2(古墳前)	6
井合遺跡	S58(1983)・5・17～5・28	千葉市遺跡調査会	2,300	住居1(古墳中)・方形周溝1・溝1	7
	S63(1988)・8・4～8・9	千葉市文化財調査協会	87/856	住居1(古墳前)・方形周溝1	
	H1(1989)・8・29～8・30	千葉市文化財調査協会	27/261	溝1	
	H3(1991)・7・17～7・24	千葉市文化財調査協会	135/342	住居1(古墳前)・方形周溝1	
	H4(1992)・8・26～8・28	千葉市文化財調査協会	44/234	溝1	

註１　千葉県教育委員会　1959　『千葉県石器時代地名表』によれば、裁判所建設時に貝が運び出されて、詳細は不明とされている。
　　千葉県教育委員会　1983　『千葉県所在貝塚遺跡詳細分布報告書』では、貝はハマグリ・ツメタガイ・アカニシ・キサゴ・ウミニナ・マガキがある。
　　酒詰仲男　1958　『日本貝塚地名表』・『日本縄文石器時代食料総説』にも記載されている。

報告１　武田宗久　1939　「下総國矢作貝塚発掘報告」『考古学』第9巻第8号
２　昭和13年発見人骨の再発掘。安行3b・3c式土器の集中地点を検出
　　雑録　1944　「仮指定千葉市矢作貝塚の発掘」『人類学雑誌』第59巻第5号
　　酒詰仲男　1967　『貝塚の話』
　　渡辺新　2001　『千葉市矢作貝塚出土の加工痕ある人骨』『史館』第31号
３　後藤和民　1974　「矢作貝塚」『千葉市史』　千葉市
４　清藤一順・岡田誠造　1981　『千葉市矢作貝塚』(財) 千葉県文化財センター
５　沖松信隆　1984　『千葉市矢作貝塚（Ⅱ）』(財) 千葉県文化財センター
６　田川良　1978　『千葉市矢作三山塚発掘調査略報』矢作三山塚遺跡調査会
７　田川良　1993　『井合遺跡発掘調査報告書』千葉市遺跡調査会

第５表　猪鼻城跡調査一覧表

	調査期間	調査者	面積	検出遺構	文献
1	Ｓ48(1973)			土塁内から古瀬戸蔵骨器出土	1
2	Ｓ55(1980)・7・18～7・29	千葉市教育委員会	80	空堀・柱穴(掘立柱建物跡又は柵)	
				空堀は幅3m・深さ2mの薬研堀	
3	Ｓ56(1981)・8・10～8・14	千葉市教育委員会	300	溝状遺構	
4	Ｓ57(1982)・7・12～Ｓ58・2・15	千葉市教育委員会	800	空堀・土壙	
5	Ｓ59(1984)・2・9～2・24	千葉市文化財調査協会	12	空堀・掘立柱建物跡・土壙	
6	H1(1989)・3・22～3・27	千葉市文化財調査協会		住居2(古墳)・土壙2・溝2・柱穴8	
7	H8(1996)・7・1～12・25	千葉市文化財調査協会		住居33(弥生11・古墳～平安22)・堀立7・溝18	2
8	H11(1999)・10・1～10・14	千葉市文化財調査協会		空堀2・溝2・土壙墓2	3
9	H12(2000)・11・14～12・1	千葉市文化財調査協会			
10	H13(2001)・9・3～11・15	千葉市文化財調査協会		堀状遺構2・墓壙44・土壙13	3
11	H14(2002)・2・15～3・15	千葉市文化財調査協会		空堀1・土壙	今回報告
12	H14(2002)・5・15～8・5	千葉大学			
13	H14(2002)・10・28～12・10	千葉大学	1,162	住居7(弥生後3・古墳前4)・土壙8・溝6	
				前方後円墳1・木棺直葬墓1・有天井土壙墓1	
14	H15(2003)・5・26～H16・1・30	千葉市文化財調査協会		空堀1・溝1・土壙10・造成区画1	今回報告
15	H16(2004)・10・14～11・12	千葉市文化財調査協会		掘立柱建物跡1・土壙5	今回報告

報告１　山田友治　1975　「房総における中世のやきもの」『史館』第5号
　　千葉市教育委員会　1976　『千葉市の文化財』
　２　倉田義広　1997　『千葉市猪鼻城跡』(財) 千葉市文化財調査協会
　　簗瀬裕一　1998　「千葉城跡」　『千葉県の歴史　資料編　中世（考古資料)』　千葉県
　３　簗瀬裕一　2003　『千葉市猪鼻城跡・皿池東遺跡』(財) 千葉市教育振興財団

については報告書が刊行されている。平成13年と平成14年の調査以外は、いずれも猪鼻城跡中心地区の調査であるが、主郭（Ⅰ郭）内部は後世の削平を受けて、中世の明確な遺構は確定できていない。

平成８年の調査では、弥生～平安時代の竪穴住居跡33軒・中世の掘立柱建物跡７棟・溝18条・地下式土壙１基が検出されれおり、平成14年の千葉大学医学部構内の調査では、弥生～平安時代の竪穴住居跡７軒と全長24mの前方後円墳１基・木棺直葬墓１基・有天井土壙墓１基が検出されており、弥生時代から平安時代にかけて集落が営まれ、古墳時代後期には墓域が形成されていることが判明した。平成13年の亥鼻３丁目公園の調査では中世の堀状遺構２基・墓壙44基・土壙13基が検出されたが、堀状遺構は落とし穴に類似すると考えられている。

猪鼻城跡の構造については、前回の報告書に詳しく述べられているが、城郭関連の遺構が確認できるのは亥鼻公園付近に限られている。Ⅰ郭の周辺には土塁が残り、千葉市立郷土博物館との間には堀があることが今回確認された。この堀は昭和57（1982）年度調査にも確認されている。神明社地点の堀切も今回の調査で検出され、小さな曲輪となっており、物見の跡の可能性が強い。Ⅱ郭の千葉市立郷土博物館の下にも堀があることが確認されており、東西に分かれる可能性がある。猪鼻城跡の中世の構造物は平成８年の調査で検出された根石を持つ掘立柱建物跡のみであり、千葉氏の居館跡としては規模が小さいとする指摘もなされており、猪鼻城跡における中世の構造は不明の点が多い。

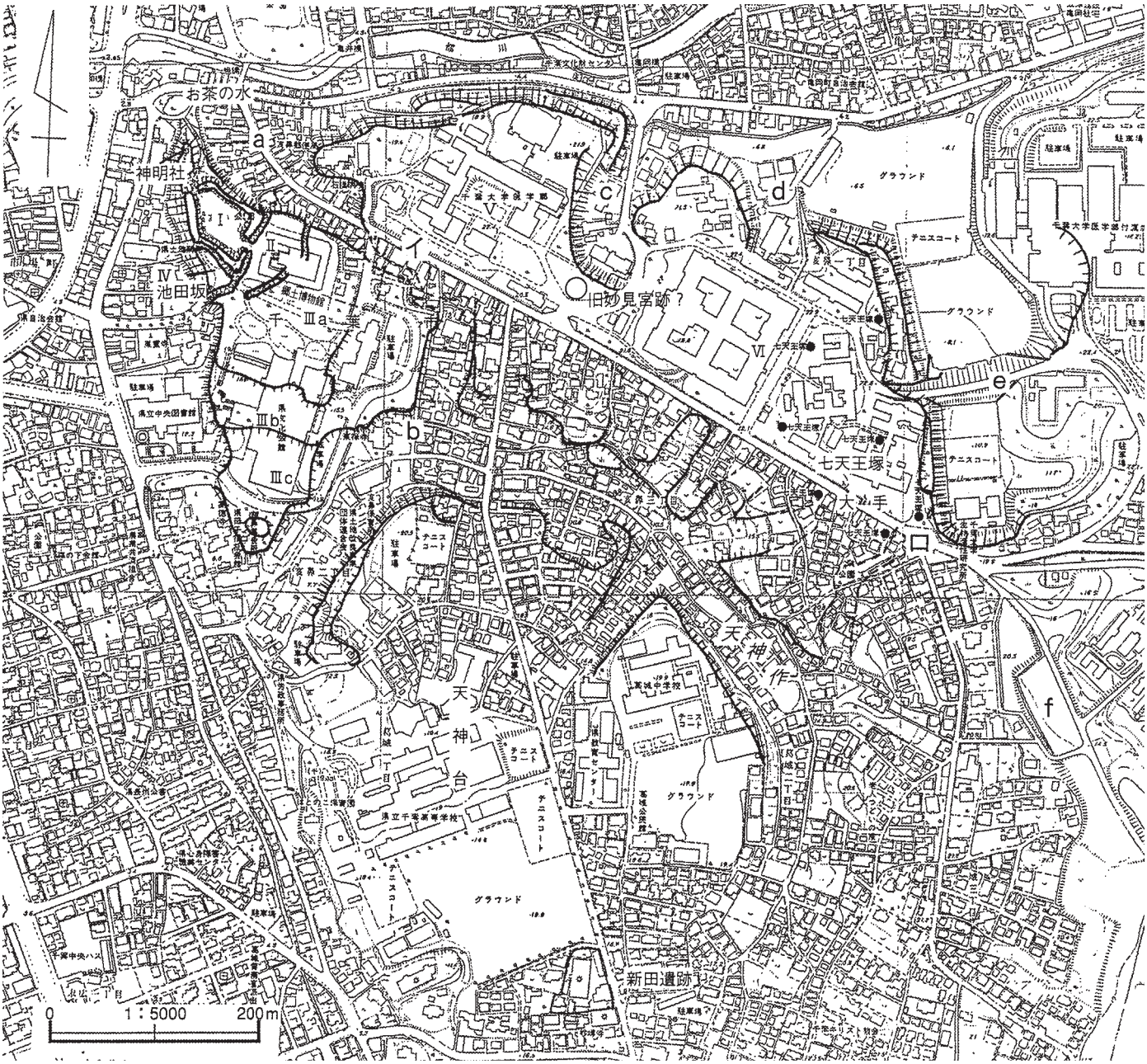
Ⅲ．検出された遺構と遺物

１．平成14年度調査-主郭（Ⅰ郭）地点-（第13～16図）

平成14年度は、主郭（Ⅰ郭）部分に、東西方向に１本と南北方向に５本のトレンチを設定した結果、一番東側の６トレンチから堀跡が検出された。これは、昭和57（1982）年度調査第２調査区の第２・第３トレンチで検出された堀跡に繋がるものである。

Ａ．堀跡

平成14年度の６トレンチ全面から検出されたもので、中央部東側に張り出しが検出された。昭和57(1982)

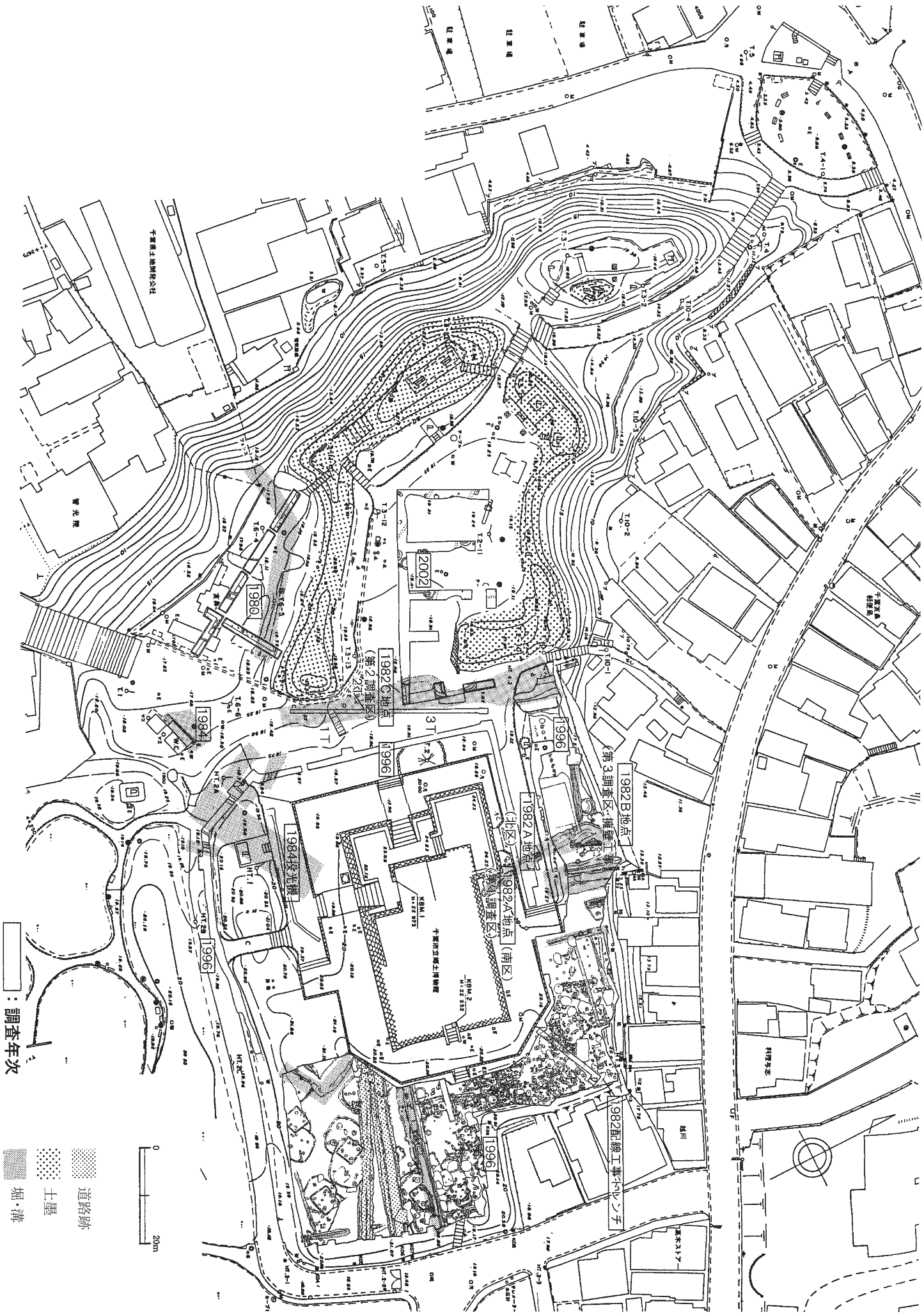


第12図　猪鼻城跡地形図

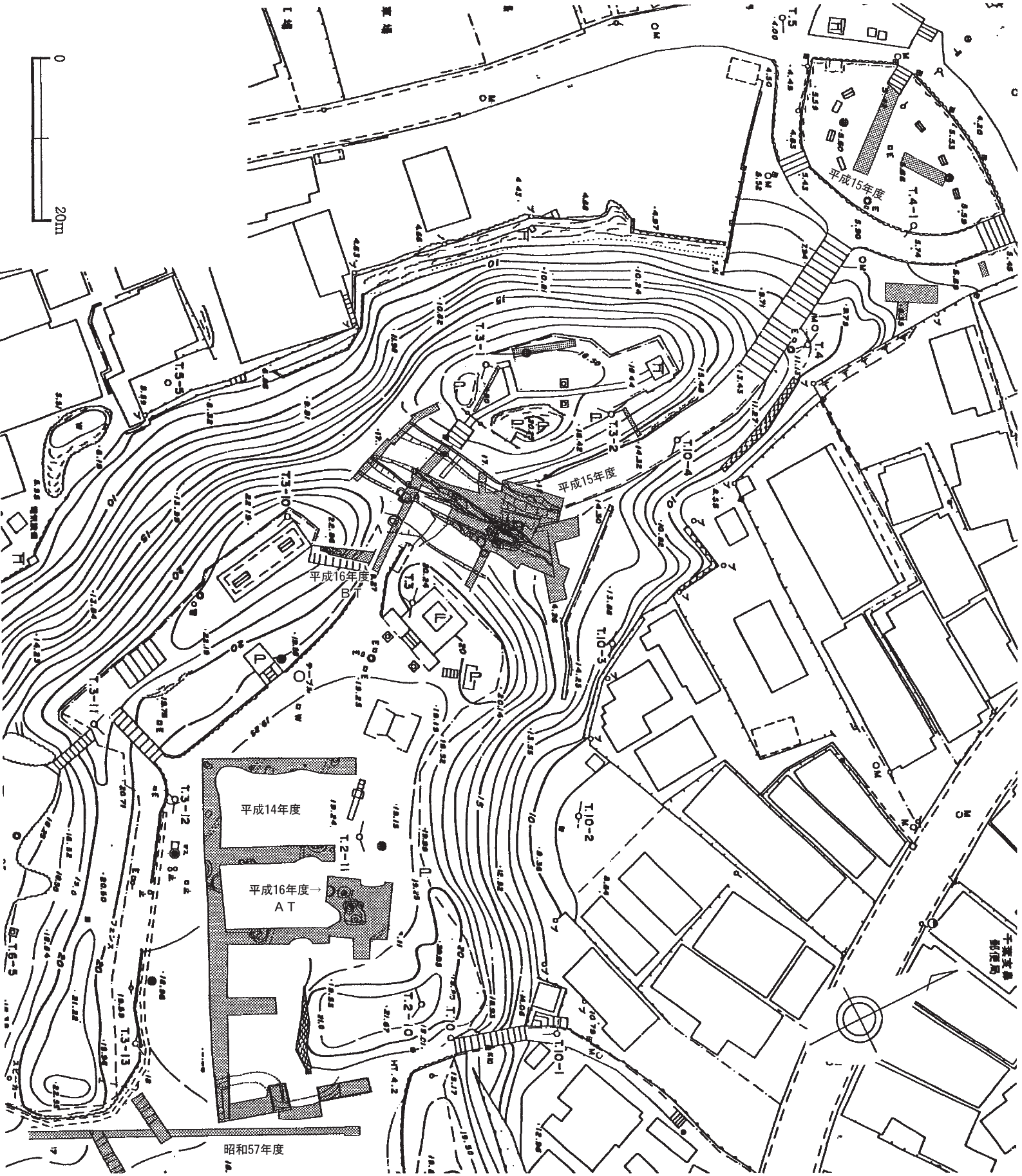
年の調査によれば、幅5.7m・深さ2.1mを呈する薬研堀で、断面中央部が一段下がることが平成14年度調査で確認された。平面的には、中央部が東側に突き出しており、この部分に橋が架けられていた可能性がある。堀底から五輪塔の空輪と地輪（第15図１・２）が出土している他、かわらけ（３・４）が出土している。

２．平成15年度調査-神明社・女坂・お茶の水公園地点-（第17図）

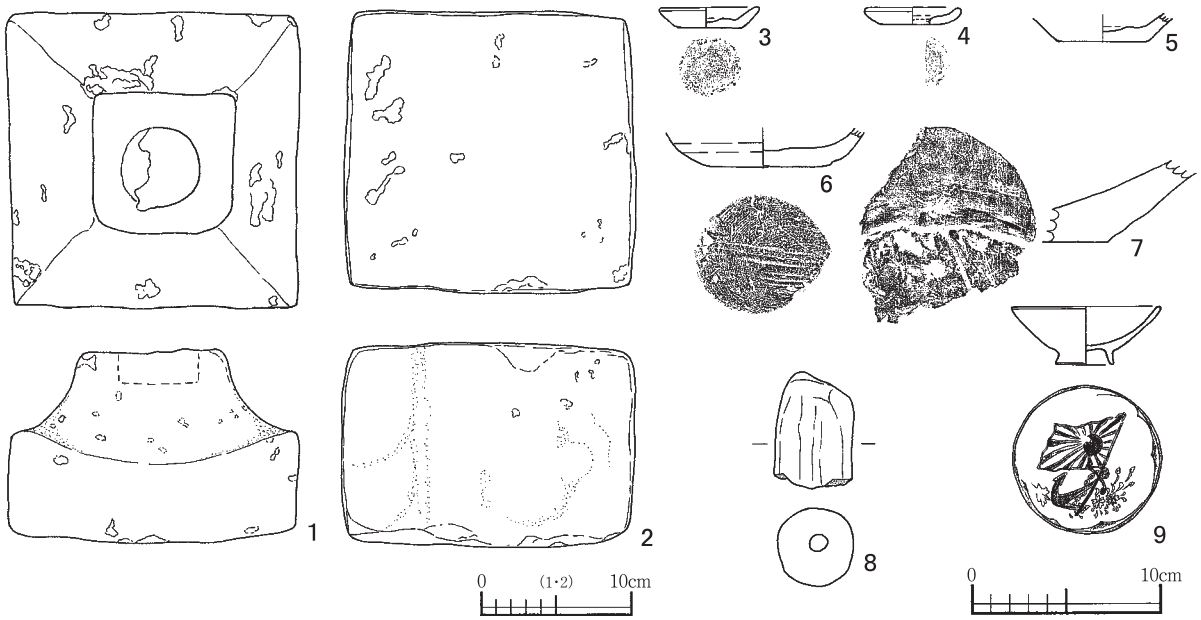
平成15年度は、神明社からお茶ノ水に下る女坂部分と、お茶ノ水公園の調査を行った結果、神明社前で重複する堀と土壙が検出されたが、女坂部分とお茶ノ水公園からは遺構は検出されなかった。



第13図　猪鼻城跡全体図



第14図　平成14～16年調査区設定図



第15図　主郭地点出土遺物実測図

A．堀跡（第17～20図）

３条の堀跡が確認されており、12トレンチでの新旧関係は、１号（新）→２号堀跡（旧）となる。１号堀は幅5.50mで、底面まで掘りきれずに深さは不明であるが、五輪塔（第18図１～９・第19図10～13）と、常滑の大甕（第19図16）が出土している。２号堀は幅3.00m・深さ1.20mを測る。15トレンチでは、１号は幅4.00m・深さ3.60mとなり、断面形も底が鋭く尖る薬研堀の形態を示す。重複遺構も、第１号土壙→１号堀跡→３号堀跡の関係が認められる。神明社側の堀内地山上には粘土ブロックを積み上げた階段状遺構が検出されており、１号堀により切られていることが確認さている。17トレンチでは、主郭（Ⅰ郭）部分には階段状のテラスが形成されている。堀の覆土内には硬化面が幾枚か検出されており、道として使用されていた可能性がある。

B．土壙（第22～24図）

17トレンチで３号堀跡を切り込んで方形の土壙が検出されている（第１号土壙）。規模：（上面）3.20m×2.06m・（下面）1.80m×0.60m　深さ：3.10m　主軸方向：N-56°-E　出土遺物：中段からは宝篋印塔（第23図１～５）と、その下から五輪塔（第23図６～９）が出土している。

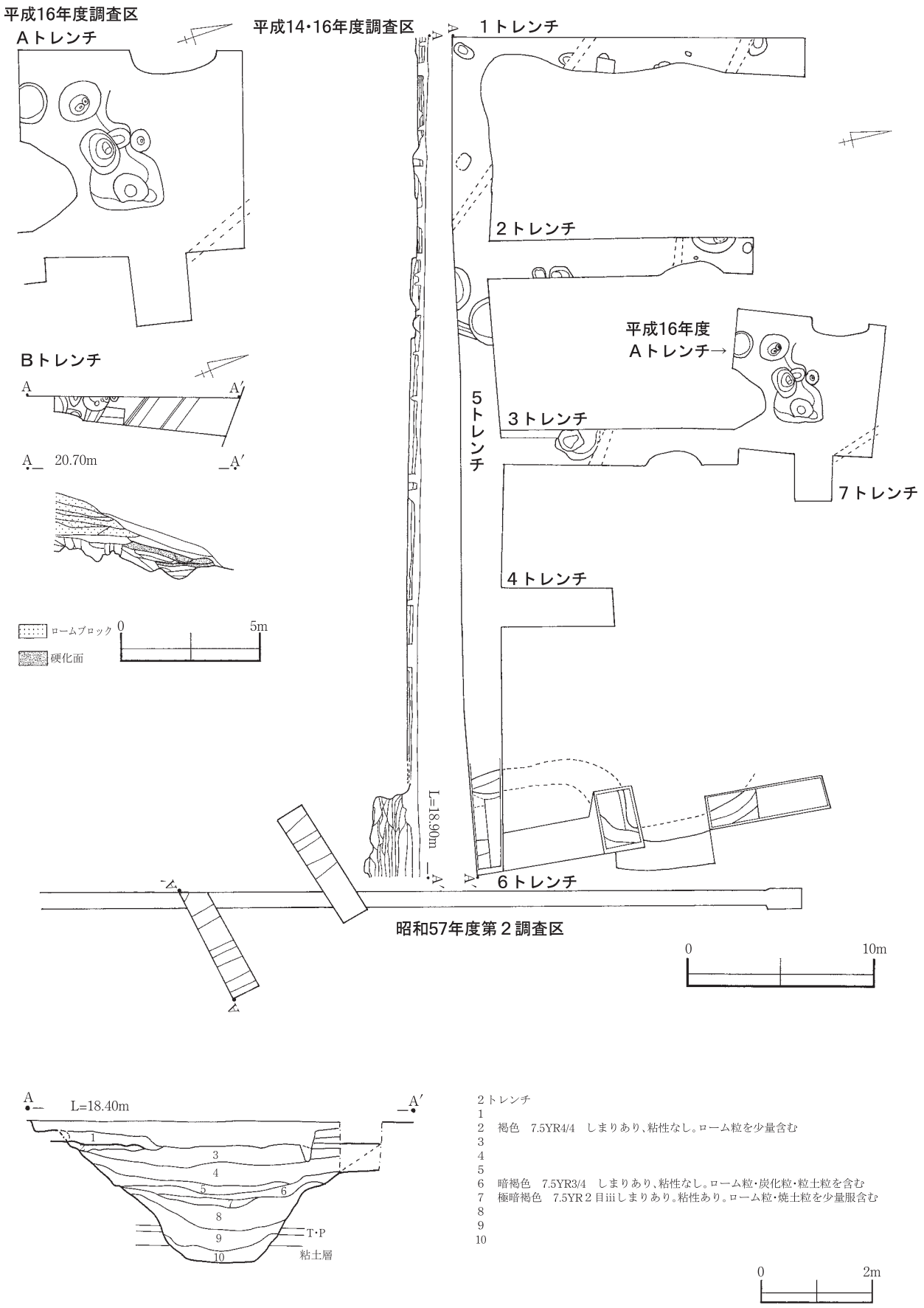
女坂とお茶の水公園の調査では遺構は検出されず、近世陶器（第25図１～９）が出土したのみである。

３．平成16年度調査－主郭（Ⅰ郭）地点-（第13図～16図）

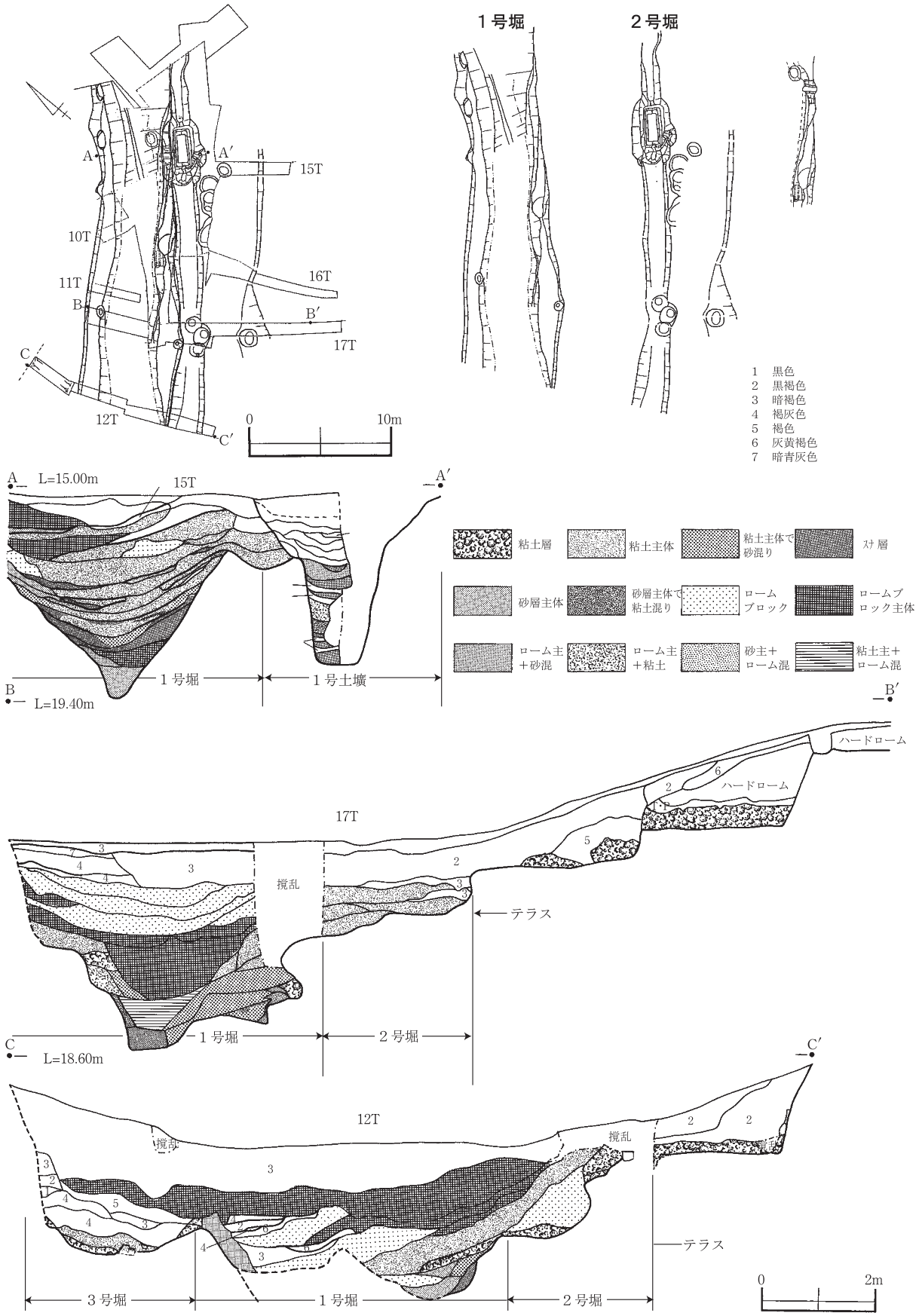
平成16年度は、主郭（Ⅰ郭）中央部にＡトレンチ、神明社側の土塁にＢトレンチを設定した結果、Ａトレンチからは根石を埋め込んだピットが、Ｂトレンチからは重複した溝２条が検出された。

A．溝跡

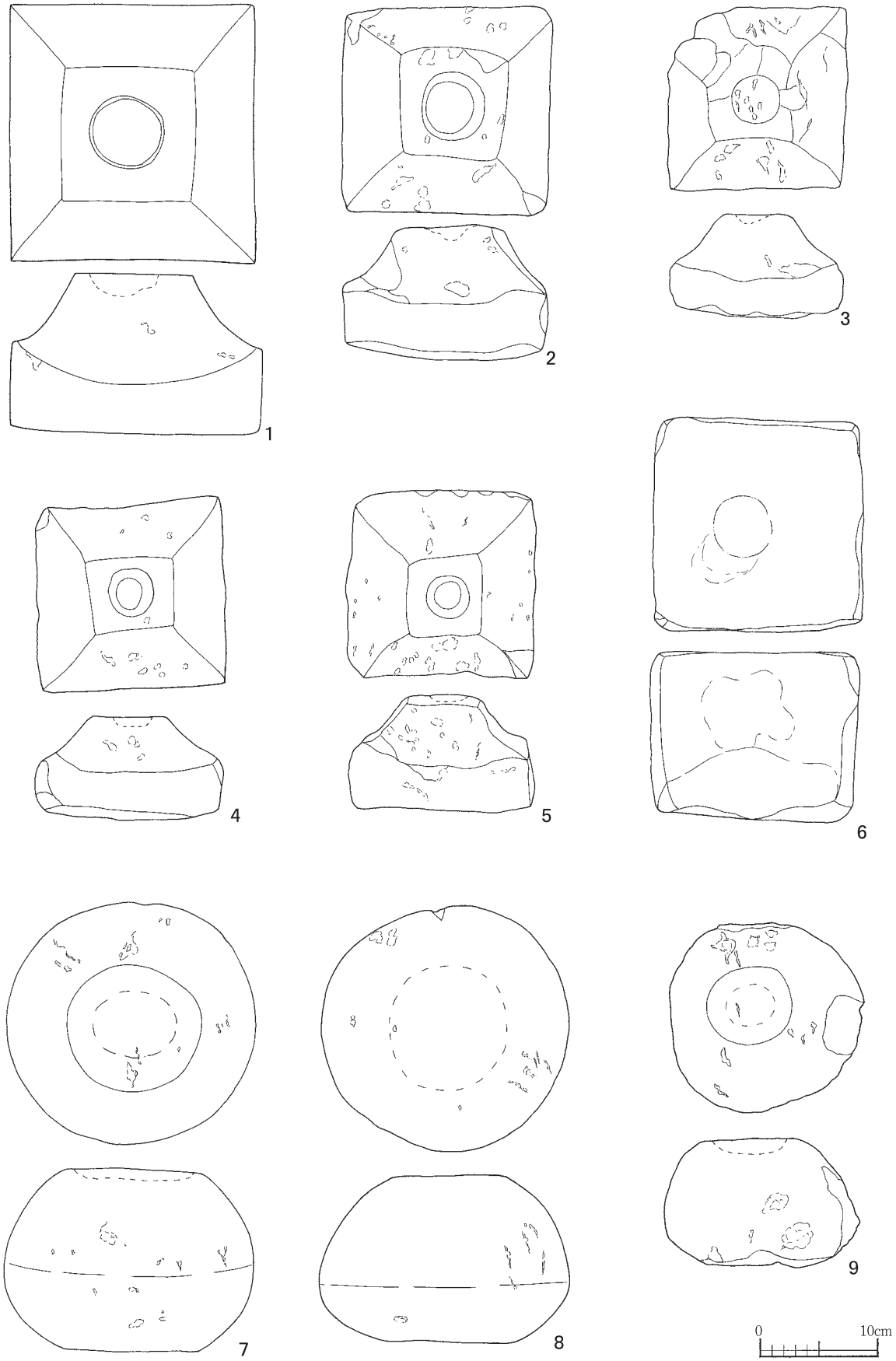
１号溝は幅1.77m・深さ0.43m、２号溝は深さ0.45mを測るが、１号溝に切られ規模不明である。溝上面には３枚の硬化面が認められる。地山は南側が一段高く、北側の主郭部分は削平を受けている可能性がある。硬化面の上の土塁から、かわらけ（第15図５・６）と土錘（８）の他、近代の海軍旗を描い



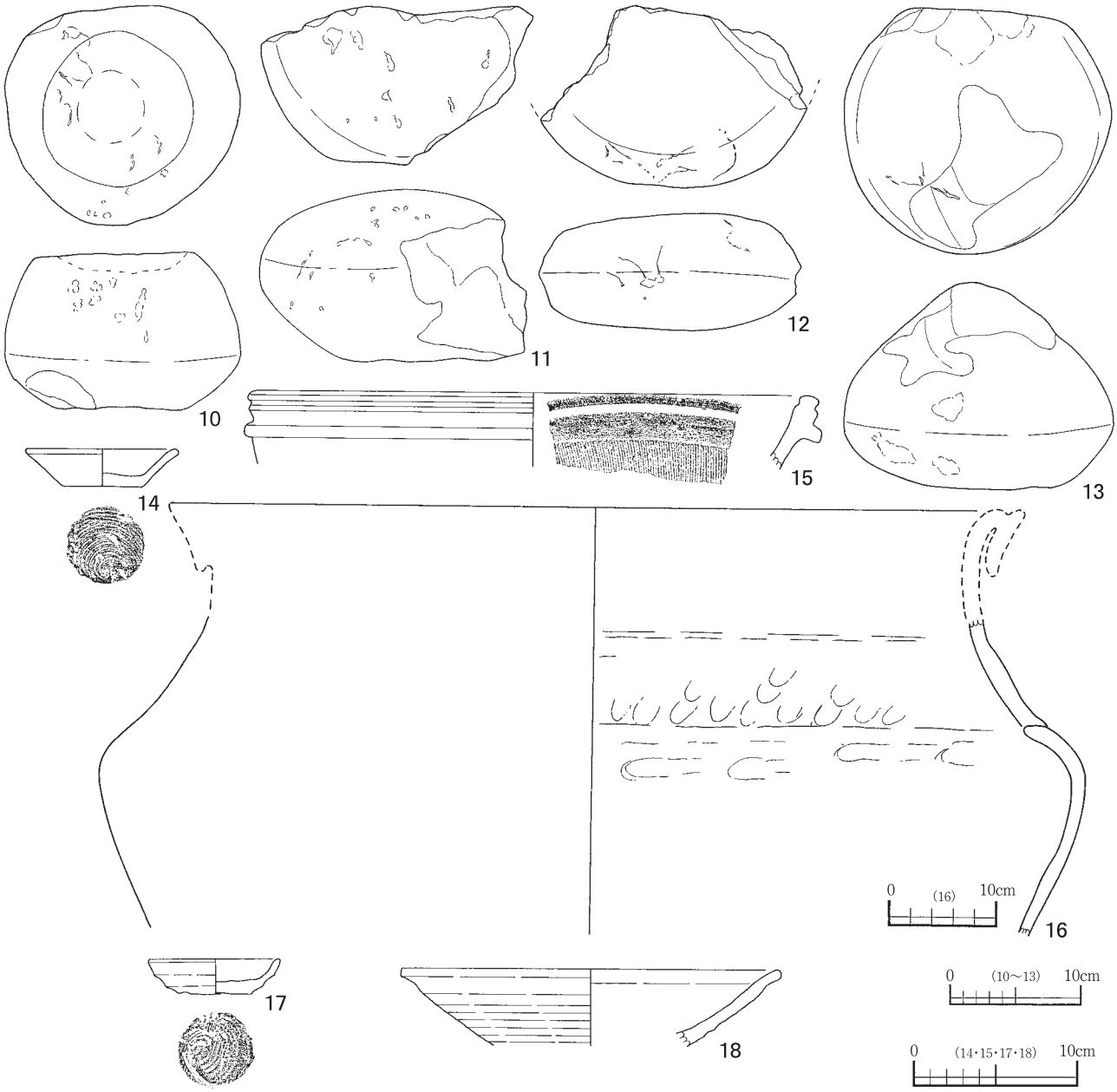
第16図　主郭地点遺構配置図


1号堀
2号堀
A
A′
15T
10T
11T
16T
B
B′
17T
C
12T
C′
0
10m
1 黒色
2 黒褐色
3 暗褐色
4 褐灰色
5 褐色
6 灰黄褐色
7 暗青灰色
A L=15.00m
15T
A′
粘土層
粘土主体
粘土主体で砂混り
スナ層
砂層主体
砂層主体で粘土混り
ローム ブロック
ロームブロック主体
ローム主＋砂混
ローム主＋粘土
砂主＋ローム混
粘土主＋ローム混
1号堀
1号土壙
B
L=19.40m
B′
ハードローム
ハードローム
17T
撹乱
テラス
1号堀
2号堀
C
L=18.60m
C′
12T
撹部
撹乱
テラス
3号堀
1号堀
2号堀
0
2m

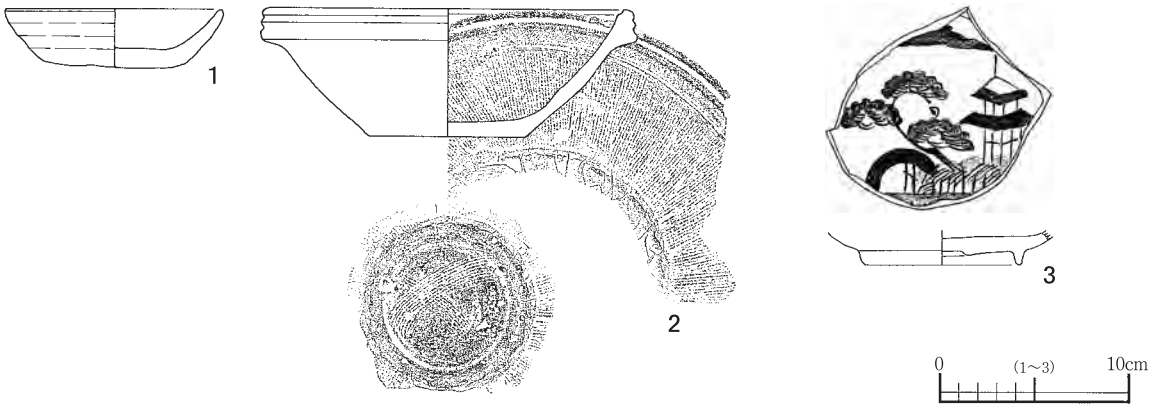
第17図　堀実測図



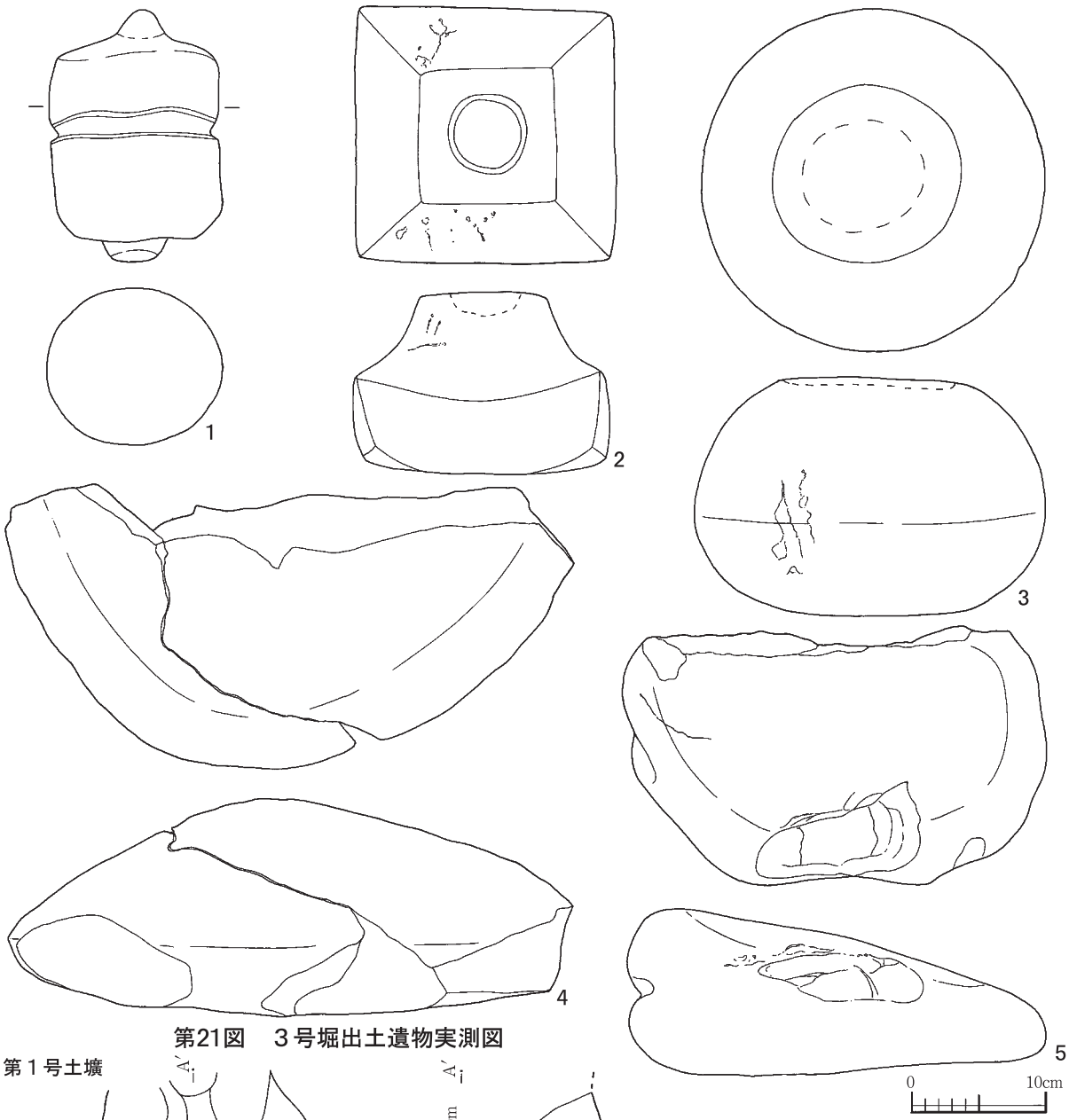
第18図　１号堀出土遺物実測図(1)



第19図　１号堀出土遺物実測図(2)

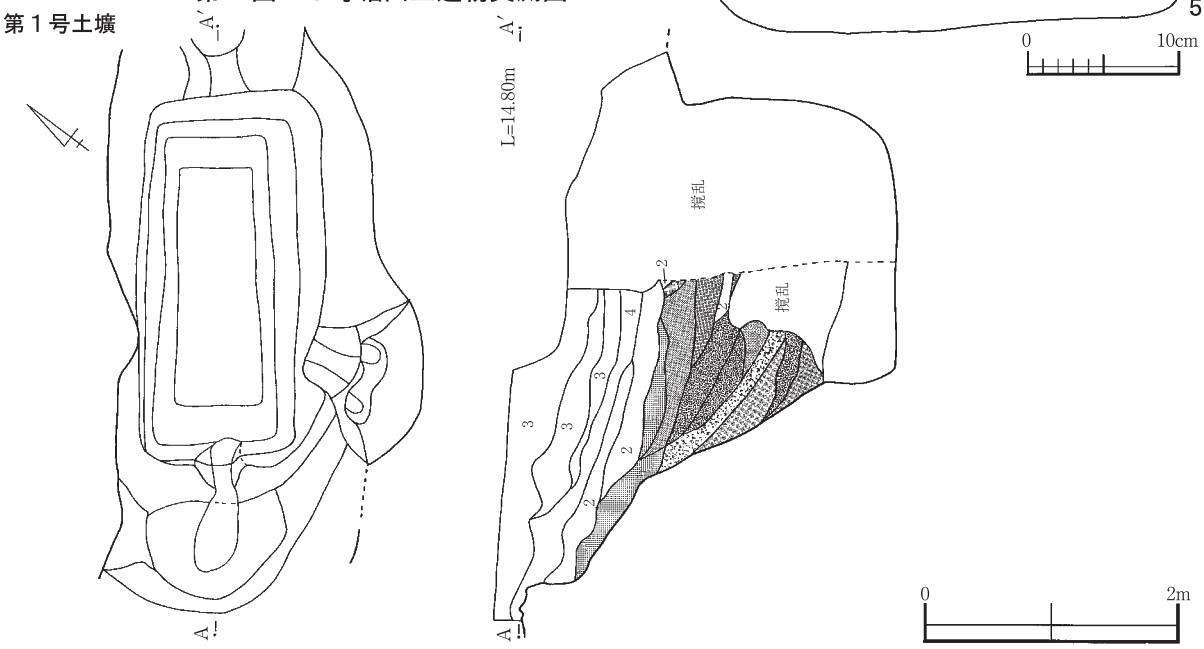


第20図　２号堀出土遺物実測図

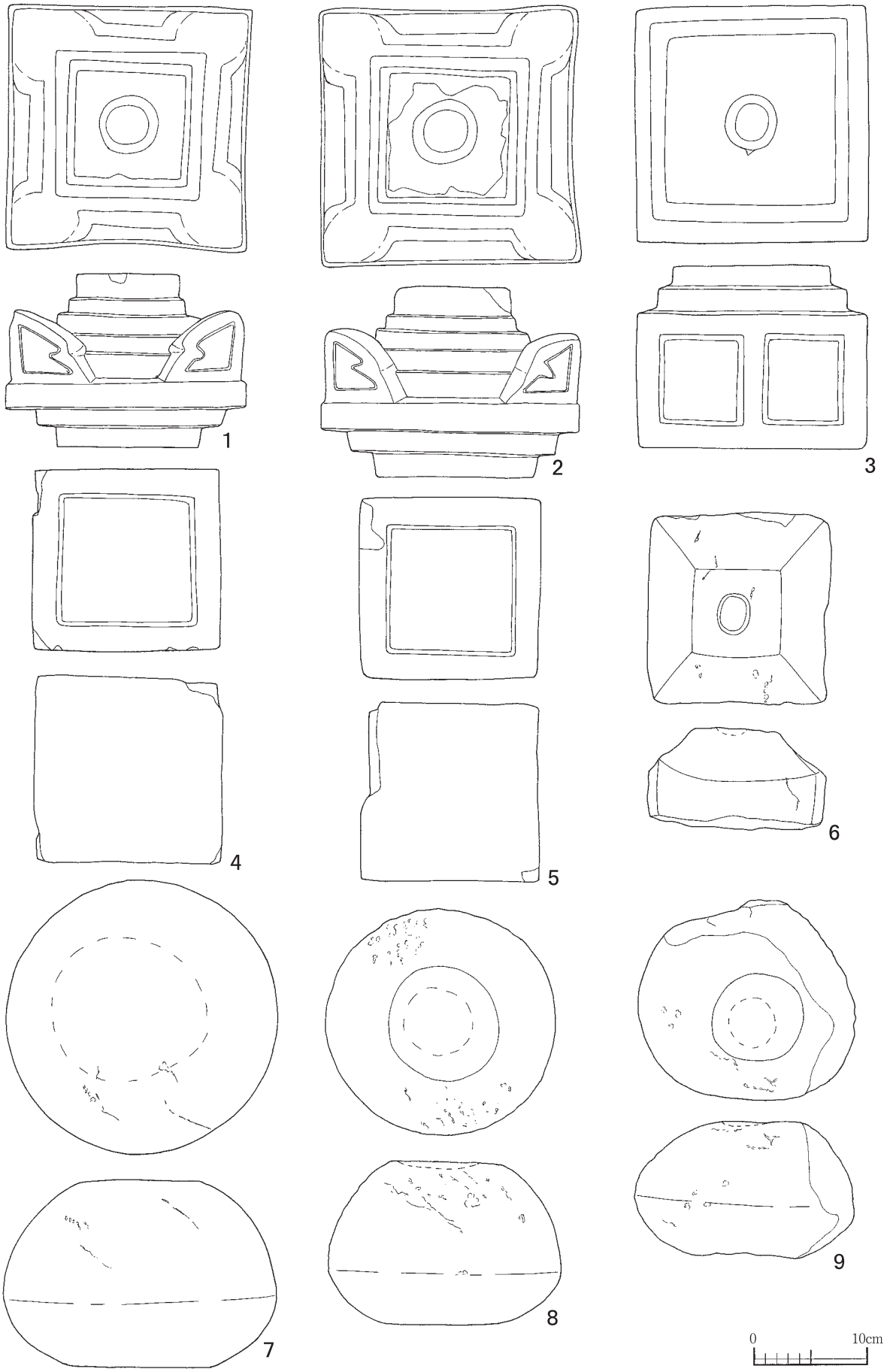


第21図　３号堀出土遺物実測図

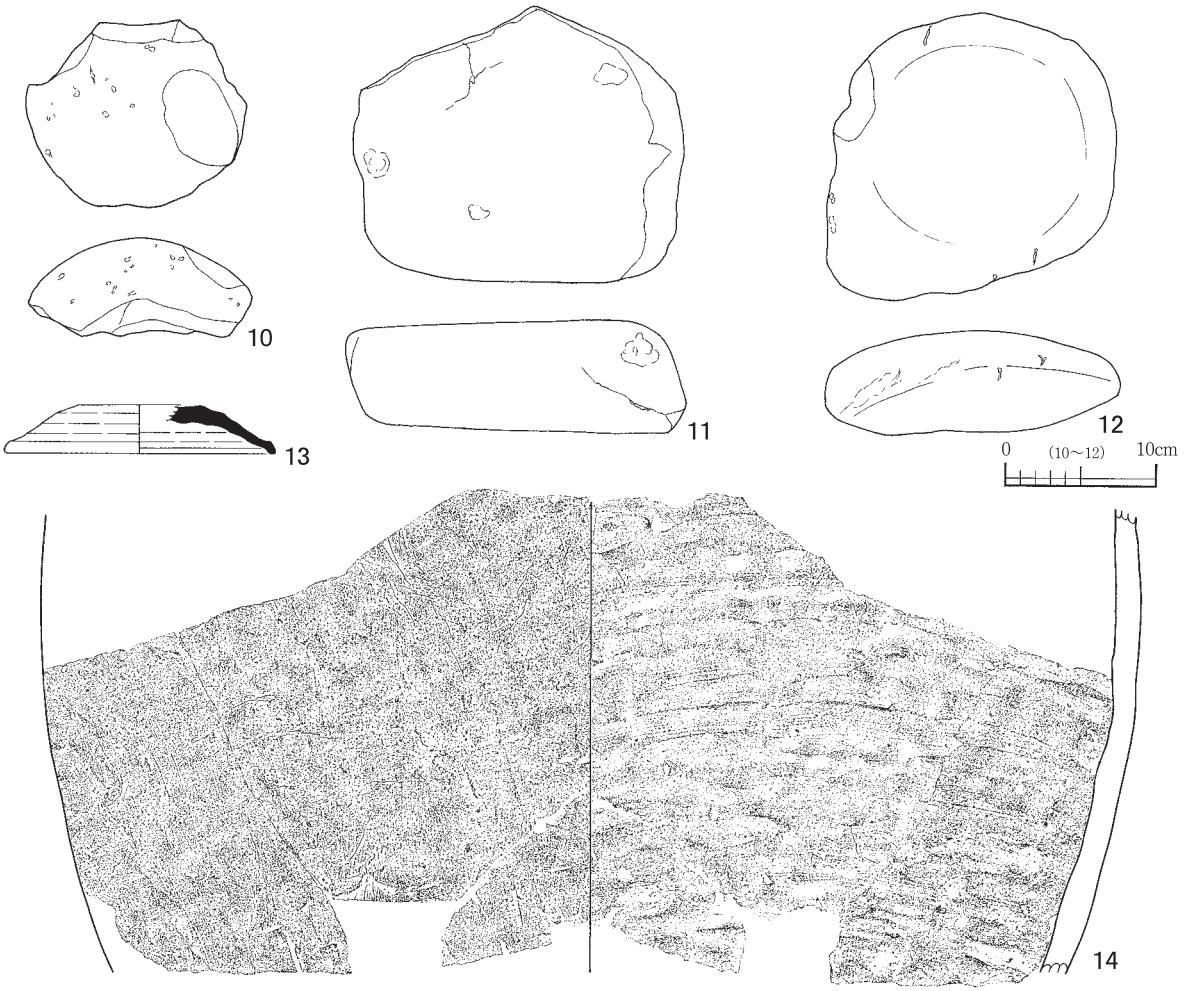
第１号土壙



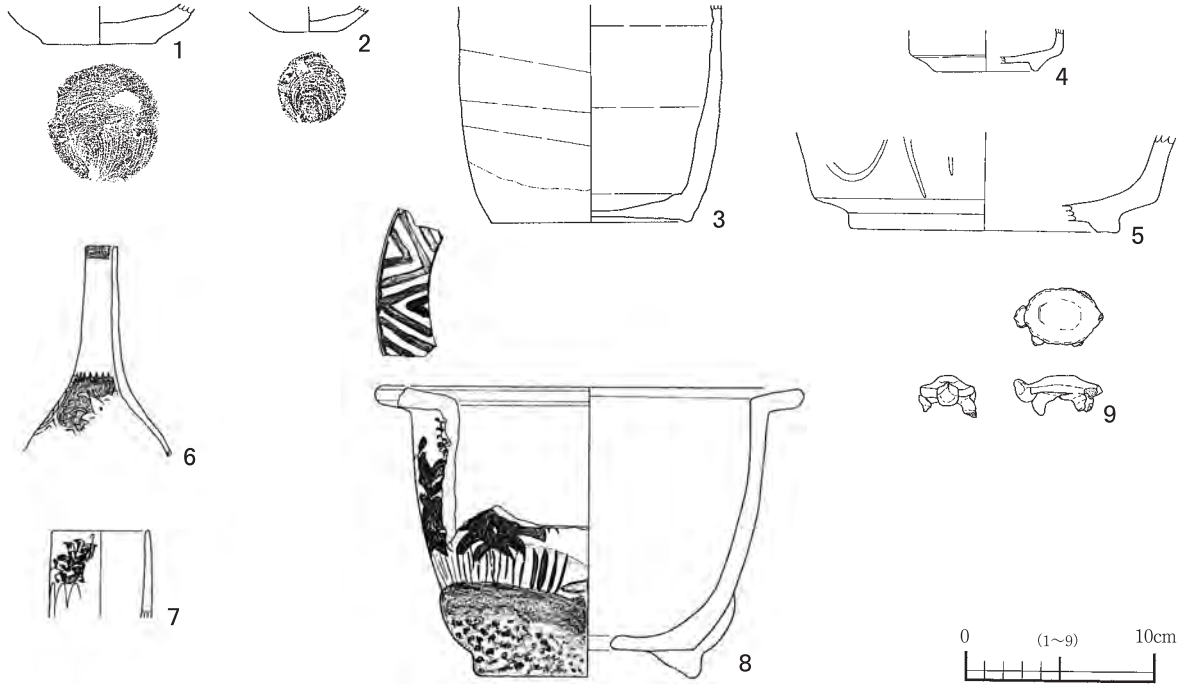
第22図　第１号土壙実測図



第23図　第１号土壙出土遺物実測図(1)



第24図　第1号土壙出土遺物実測図(2)



第25図　女坂・お茶ノ水公園出土遺物実測図

第６表　石塔観察表

図No.	種別	出土	地点	大きさ（cm）	石材	地点	調査年度
15-１	五輪塔火輪	主郭	堀	①19.４　②19.２　③4.６　④4.６　⑤2.８　⑥13.７	安山岩		平成14年度
15-２	五輪塔地輪	主郭	堀	①18.６　②19.４　③-　④-　⑤-　⑥13.５	安山岩		平成14年度
18-１	五輪塔火輪	神明社前	堀１	①22.２　②20.８　③11.０　④11.０　⑤6.２　⑥13.２	安山岩	12トレンチ	平成15年度
18-２	五輪塔火輪	神明社前	堀１	①17.８　②17.８　③9.２　④9.４　⑤5.２　⑥11.０	安山岩	12トレンチ	平成15年度
18-３	五輪塔火輪	神明社前	堀１	①15.４　②15.０　③7.８　④7.０　⑤4.０　⑥8.８	安山岩	12トレンチ	平成15年度
18-４	五輪塔火輪	神明社前	堀１	①16.０　②16.２　③6.２　④7.０　⑤4.２　⑥9.０	安山岩	12トレンチ	平成15年度
18-５	五輪塔火輪	神明社前	堀１	①15.４　②16.４　③7.０　④6.６　⑤4.０　⑥9.０	安山岩	12トレンチ	平成15年度
18-６	五輪塔	神明社前	堀１	①18.０　②17.８　③-　④-　⑤-　⑥15.２	安山岩	12トレンチ	平成15年度
18-７	五輪塔水輪	神明社前	堀１	①21.０　②21.０　③11.４　④15.２	安山岩	12トレンチ	平成15年度
18-８	五輪塔水輪	神明社前	堀１	①21.０　②21.２　③-　④14.０	安山岩	12トレンチ	平成15年度
18-９	五輪塔水輪	神明社前	堀１	①16.０　②16.８　③7.８　④11.０	安山岩	12トレンチ	平成15年度
19-10	五輪塔水輪	神明社前	堀１	①16.６　②17.６　③5.２　④11.８	安山岩	12トレンチ	平成15年度
19-11	五輪塔水輪	神明社前	堀１	①（12.０）　②（22.０）　③-　④13.０	安山岩	12トレンチ	平成15年度
19-12	五輪塔空輪	神明社前	堀１	①19.０　②20.８　③-　④16.４	安山岩	12トレンチ	平成15年度
19-13	五輪塔風輪	神明社前	堀１	①（13.６）　②（19.８）　③-　④8.８	安山岩	12トレンチ	平成15年度
21-１	五輪塔空風輪	神明社前	堀３	①19.０　②12.６　③12.４　④4.８	安山岩	堀状Ａ	平成15年度
21-２	五輪塔火輪	神明社前	堀３	①19.０　②19.６　③10.２　④10.０　⑤6.２　⑥14.０	安山岩	堀状Ｄ	平成15年度
21-３	五輪塔火輪	神明社前	堀３	①25.８　②26.０　③14.０　④17.８	安山岩	１号溝	平成15年度
21-４	礎石	神明社前	堀３	①20.０　②42.０　③-　④16.２	安山岩	堀状４・Ｂ	平成15年度
21-５	礎石	神明社前	堀３	①（17.０）　②（31.２）　③-　④12.２	安山岩	１号溝	平成15年度
23-１	宝篋印塔	神明社前	堀３	①21.４　②21.８　③6.０　④15.２	安山岩	堀状６	平成15年度
23-２	宝篋印塔	神明社前	１号土壙	①22.８　②23.０　③6.０　④17.０	安山岩	堀状10	平成15年度
23-３	宝篋印塔基礎	神明社前	１号土壙	①21.０　②21.０　③5.０　④16.０	安山岩	堀状14	平成15年度
23-４	宝篋印塔塔身	神明社前	１号土壙	①16.０　②17.０　③-　④16.４	安山岩	堀状８	平成15年度
23-５	宝篋印塔塔身	神明社前	１号土壙	①16.０　②16.０　③-　④16.０	安山岩	堀状９	平成15年度
23-６	五輪塔火輪	神明社前	１号土壙	①16.８　②16.０　③7.６　④8.０　⑤3.０　⑥8.０	安山岩	堀状３	平成15年度
23-７	五輪塔水輪	神明社前	１号土壙	①24.０　②23.８　③-　④16.６	安山岩	堀状１	平成15年度
23-８	五輪塔水輪	神明社前	１号土壙	①20.０　②20.０　③8.８　④14.４	安山岩	堀状２	平成15年度
23-９	五輪塔水輪	神明社前	１号土壙	①14.０　②19.０　③14.２　④11.８	安山岩	堀状７	平成15年度

第７表　遺物観察表

図No.	種　別	出土地点		法量			調整・成形・その他	色　　調	胎　　土	焼　成		備　考	注記NO
				①口径	②底径	③器高							
15-3	坏	主郭	堀C	①5.3	②3.3	③1.1				良		堀C	平成14年度
15-4	坏	主郭	堀B	①(4.8)	②(3.8)	③0.9				良		堀B	平成14年度
15-5	坏	主郭	土塁	①-	②(4.7)	③(1.5)	底部外面指ナデ	10YR6/4にぶい黄橙	微砂粒を含む	良	底部	土塁	平成16年度
15-6	坏	主郭	土塁	①-	②6.8	③(2.1)	回転糸切り・底部外周ナデ	10YR6/4にぶい黄橙	微砂粒を含む	良	底部	土塁	平成16年度
15-7	坏	主郭	堀B	①-	②(14.8)	③(4.4)				良	底部	堀B	平成14年度
15-8	土錘	主郭	土塁	①4.0	②4.0	③(6.0)	縦の削り・1.0㎝の孔	5YR4/6赤褐	砂粒を含む	良		土塁	平成16年度
19-14	坏	神明社前	1号堀	①(9.3)	②4.7	③2.3	回転糸切り・底部外周ナデ	10YR6/4にぶい黄橙	雲母粒・砂粒を含む	良		12トレ-堀上段	平成15年度
19-15	擂鉢	神明社前	1号堀	①(34.8)	②-	③(4.5)	外面に鍔・内面凹線櫛目	2.5YR5/6明赤褐	1～2㎜の白色粒を含む	良	口縁部破片	12トレンチ	平成15年度
19-16	甕	神明社前	1号堀	①-	②-	③(28.8)	内面に親指による圧痕とナデ	7.5YR4/1褐	1～3㎜の貴白色粒を含む	良	胴部部破片	12トレンチ	平成15年度
19-17	皿	神明社前	堀	①(8.0)	②(4.4)	③2.1	回転糸切り・底部外周ナデ	10YR1.7/1黒	雲母粒・砂粒を含む	良		堀スナ土	平成15年度
19-18	鉢	神明社前	堀	①(23.0)	②-	③(4.6)	外面釉	5YR6/3オリ-ブ黄	長石・白色粒子を含む	良	口縁部破片	堀上面	平成15年度
20-1	坏	神明社前	2号堀	①(11.5)	②7.0	③2.1	回転ヘラ切り・底部外周ナデ	10YR6/4にぶい黄橙	白色砂粒を含む	良		2号堀最上	平成15年度
20-2	擂鉢	神明社前	2号堀	①(19.4)	②8.3	③6.7	内面凹線櫛目	5YR93/3暗赤褐	1～3㎜の白色粒を含む	良		2号堀最上	平成15年度
20-3	染付皿	神明社前	2号堀	①-	②(1.8)	③(8.4)	内面絵付け	10GＹ明緑灰	白色粒子を含む	良	底部	2号堀最上	平成15年度
24-13	蓋	神明社前	1号土壙	①(14.2)	②(6.5)	③2.6		10YR96/1灰	白色粒・砂粒を含む	良		1号堀最上	平成15年度
24-14	甕	神明社前	1号土壙	①-	②-	③(24.6)	外面に縦の削り・内面横ナデ	7.5YR4/3褐	1～5㎜の貴白色粒を含む	良	胴部部破片	1号堀表土	平成15年度
25-1	坏	神明社前	女坂	①-	②6.0	③(2.0)	回転糸切り・底部外周ナデ	2.5YR5/6明赤褐	砂粒を含む	良	底部	道路	平成15年度
25-2	坏	神明社前	主郭	①-	②3.5	③(1.4)	回転糸切り・底部外周ナデ	7.5YR5/6にぶい褐	砂粒を含む	良	底部	1～4トレンチ	平成15年度
25-3	徳利	神明社前	女坂	①-	②10.5	③(11.4)	外面釉	7.5YR6/2灰オリ-ブ	白色粒子を含む	良		道路	平成15年度
25-4	椀	神明社前	女坂	①-	②(5.4)	③(2.3)	外面釉	10Y8/1灰白	白色粒子を含む	良	底部1/4	道路	平成15年度
25-5	水甕	神明社前	女坂	①-	②(14.3)	③(5.2)	外面釉	5YR7/3浅貴	長石・白色粒子を含む	良		道路	平成15年度
25-6	徳利	神明社前	女坂	①1.7	②-	③(11.0)	外面絵付け	N8/灰白	白色粒子を含む	良		道路	平成15年度
25-7	椀	神明社前	女坂	①(5.2)	②-	③(4.6)	外面釉	10Y8/1灰白	白色粒子を含む	良	底部1/4	道路	平成15年度
25-8	植木鉢	神明社前	女坂	①(22.0)	②(11.0)	③15.3					1/8	1～4トレンチ	平成15年度
25-9	蓋の摘	神明社前	女坂	①-	②-		亀形					道路	平成15年度

た坏（９）が出土したが、これは付近にある忠魂碑に関係するものである。

Ｂ．土壙・ピット

Ａトレンチから石を３個詰め込んだ円形のピットが検出されている。規模は周辺が撹乱を著しく受け、不明であるが、近現代のものと思われる。

Ｂトレンチ南側の高い地点から土壙とピットが検出されている。これらは土の堆積状態から、溝より一段階古い可能性がある。

平成16年度のＢトレンチの、１号溝上面の硬化面と土壙・ピットの掘り込み面の上に積まれたロームブロック混りの層が、現在の土塁状の盛土を形成しており、溝はこれより古いことが確認された。また、平成15年の堀と直交する可能性がある。

Ⅳ．まとめ

平成14年度調査では、主郭（Ⅰ郭）と東側のⅡ郭の間に堀が確認されたが、平成16年度調査を含めて、明確な中世の遺構は検出されなかった。

平成15年度調査では、主郭（Ⅰ郭）と西側の神明社が堀により断ち切られていることが判明した。また１号土壙は平成13年度の亥鼻３丁目公園の調査に落とし穴とされた堀跡と共通している。

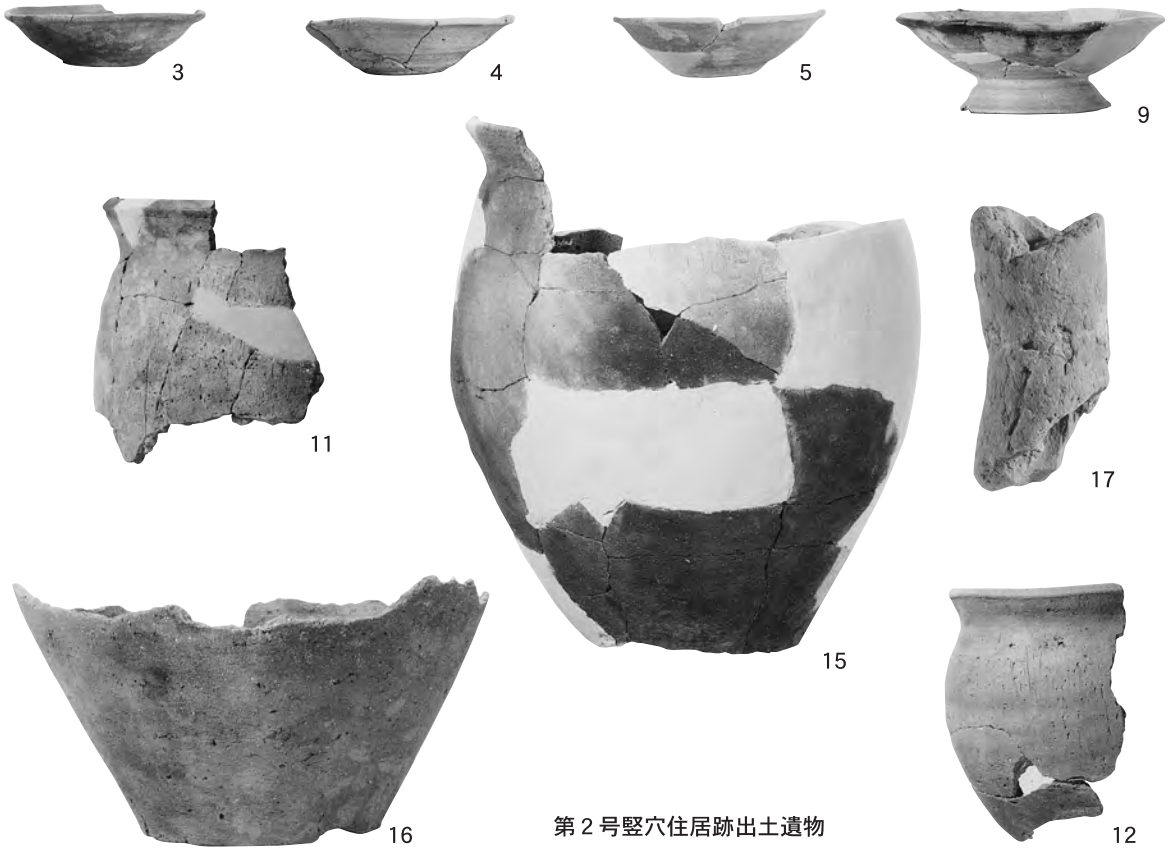
平成16年度調査では、Ｂトレンチから溝が２条検出されている。本地点は昭和48年に古瀬戸の蔵骨器が出土している地点に近接していたが、両者の関係は明確に捉えることはできなかった。

調査地点近景

第 1 号竪穴住居跡全景

第 2 号竪穴住居跡全景

第 2 号竪穴住居跡遺物出土状況



第 2 号竪穴住居跡出土遺物

主郭（Ⅰ郭）調査地点近景

昭和57年度堀検出状況

平成14年度調査状況

平成15年度調査地点

１号堀断面

３号堀断面

第１号土壙全景

第１号土壙遺物出土状況

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

1号堀出土遺物

1

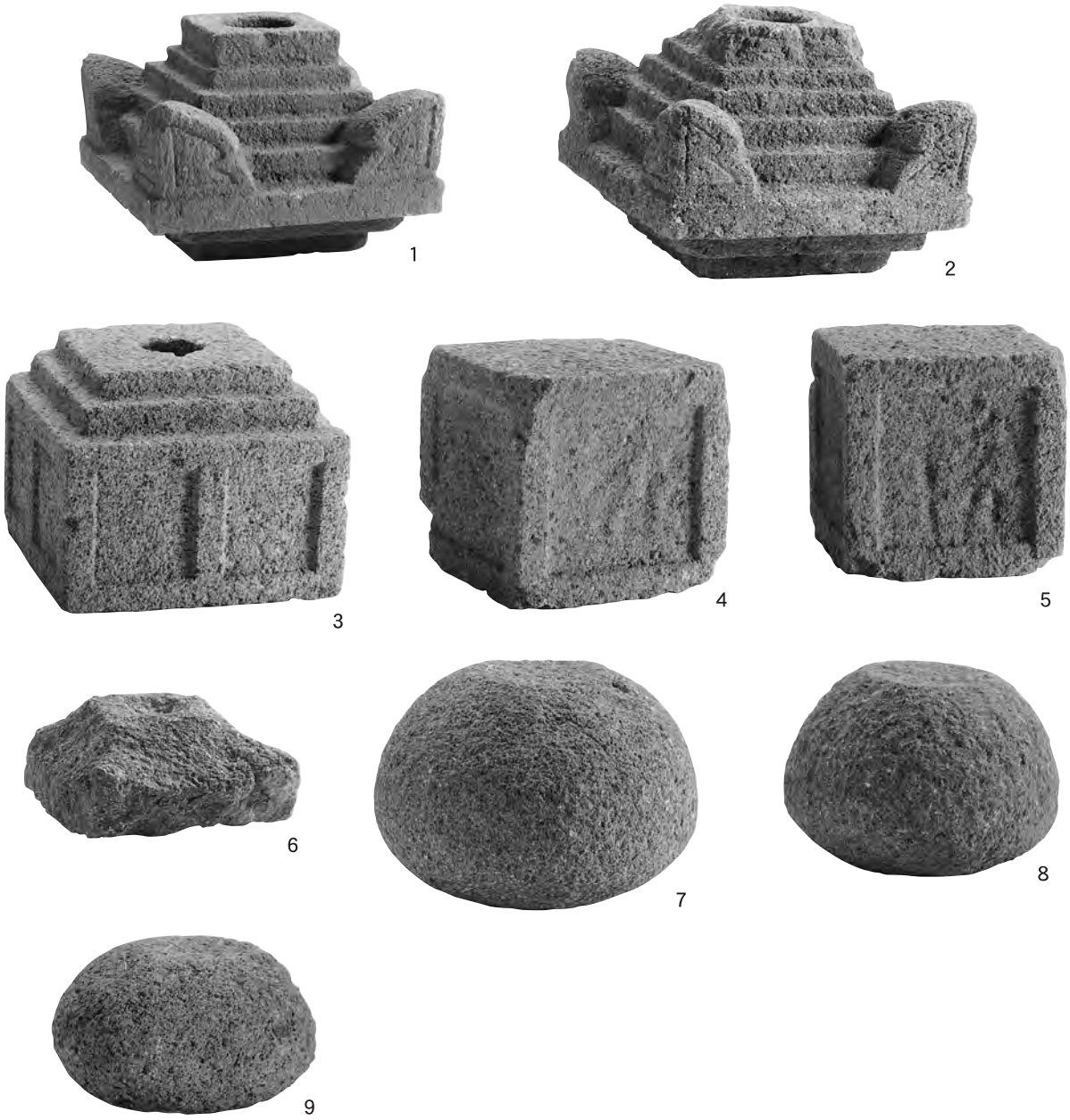
2

3

3号堀出土遺物

猪鼻城跡（2）

PL4



第１号土壙出土遺物

猪鼻城跡（３）

報 告 書 抄 録

ふ り が な	ちばしたかだいむかいいせき・いのはなじょうあと
書 名	千葉市高台向遺跡・猪鼻城跡
副 書 名	
巻 次	
シ リ ー ズ 名	
シリーズ番号	
編 著 者 名	田中　英世
編 集 機 関	財団法人　千葉市教育振興財団　埋蔵文化財調査センター
所 在 地	〒260-0814　千葉市中央区南生実町1210　TEL 043-266-5433
発 行 年 月 日	西暦2007年３月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所 在 地	コード		経緯度		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
たかだいむかいいせき 高台向遺跡	ちばしはなみがわく 千葉市花見川区 よことちょう 横戸町1486-2	12104	花見川 -1	35° 42′ 54″	140° 08′ 02″	20040301～ 20040330	1,322㎡	公園建設事業
いのはなじょうあと 猪鼻城跡	ちばしちゅうおうく 千葉市中央区 いのはな 亥鼻1-6-1他	12104 12104 12104	中央-23 中央-23 中央-23	35° 35′ 59″	148° 08′ 03″	20020215～ 20020315 20030526～ 10040130 20041014～ 2041112	260/10293 ㎡ 1,320㎡ 50㎡	公園再整備事業 公園再整備事業 公園再整備事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
高台向遺跡	集落跡	古墳～平安時代	竪穴住居跡　２軒	縄文土器 砥石 土師器・須恵器	
猪鼻城跡	城郭	中近世	空堀　３条 土壙　１基	宝篋印塔・五輪塔 かわらけ	

千葉市高台向遺跡・猪鼻城跡

平成19年３月31日発行

編集・発行　千葉市教育委員会
〒260-8730 千葉市中央区問屋町1-35
TEL　043-245-5962
財団法人 千葉市教育振興財団
埋蔵文化財調査センター
〒260-0814 千葉市中央区南生実町1210
TEL　043-266-5433

印　　刷　三陽工業株式会社
〒290-0056 市原市五井5510-1
TEL　0436-22-4348